

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4201

柳沼紗英子

タイトル

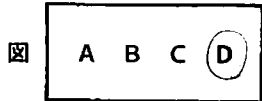
作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

男の別れ

私がこの絵を見て、まず最初に思いついたキーワードは「暗い」「死」「別れ」「幽霊」「男女」です。そして最初に思いついたシーンが「男性が死んで、女性が葬儀の準備をしている中、幽霊となって別れを告げに来る」というものです。まず、そのように考えた根拠は男性が宙に浮き、体が不自然に折れまがっているというところから、以上のことから、男性は幽霊のようなものであり、女性とは違う存在だということがわかります。また、男性が緑色の普通の服を着ているのに比べ、女性の方はワンピースから靴まで全身黒、ほい服装になっています。これは、いわゆる喪服のようなイメージを感じることができます。また、この絵を見て印象に残ったことは、全体的にほんやりとした雰囲気、パースがおかしく、歪んでいるということです。色が暗く、ほんやりした雰囲気になっているのは個人的に良い印象を受けました。しかし、パースがおかしく、外の景色と部屋の中がちがひほど、テーブルに置いてある皿なども歪んでいるように見えるのはあまり理解ができませんでした。私の解釈としては、幽霊がはきり見えているということもあり、一種の夢のような空間なのではないかと思いました。だからパースが狂っていて、部屋全体がおかしいのだととらえました。私は、この絵を描いた作者はこの絵と同じ境遇なのではないかと思いました。男女は逆ですが、この絵を描いたのは男性で、恋人の女性が死んで、その悲しみにうちまがれる中描いたものではないかと思いました。なぜかという、この絵の中には黒、ほい部分が多く、全体的に彩度が低く暗いイメージだということと、描かれている人間からもあまり生気が感じられないからです。この描かれている女性は、手に花を持って、葬儀の準備をしているようにも見えます。私は、作者が恋人を失った悲しみを忘れないように、彼女への弔いのつもりでこの絵を描いたのだと思いました。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

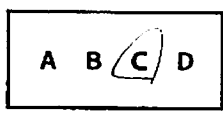
学生番号 4201 氏名 柳沼紗英子

タイトルの 作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
夜明け

私がこの絵を見て一番に感じた事は、タイトルの通り「夜明け」です。なぜそう感じたかという、一番の理由は、画面右上に見える丸が太陽に、左側にある三角形と四角形を組み合わせたような物体は家のように見え、家のかげから太陽が出てきているように見えたからであつた。色合いからも、そのように感じる事ができます。全体的に青みがかかり、太陽の部分はオレンジ色となつていて、ところどころに赤色が見えます。これはまるで、ちょうど夜が明けると4時から5時くらいの時、朝の光のようです。以上の点から、私はこの絵を「夜明けを描いた抽象画だ」と考えました。そしてさらに、この左側に描いてあるものが家に見えるというのは、上の部分の三角形が屋根に見えたと同時に、下の部分の四角形のようなものが家のドアのように見えるためです。私は、この絵は図形的でありながら感じられませんが、4時〜5時の夜明けの時間帯は好きですが、自然の風景の良さはこのように単純化、無機質な図形化することではなく、自然の細やかなディテールで無理しきれない部分の魅力を引きたるることだと考えているからです。また、私はこの絵の色に魅了してはいても好感が持てます。このグラデーションのような、モザイクのような絶妙な色の組み合わせが、うまく自然な色合いを出していると思ひました。特に彩度の高い色を使うのではなく、少し彩度の低い、薄い色を使用することにより、夜明けのささやかな雰囲気が出ていると思ひました。この絵は、家のような部分が画面の多くを占めているにもかかわらず、太陽の部分が主役のように思ひます。これは、家部分の色を背景色と同化させることでオレンジ色の太陽を自立させ、神秘的な雰囲気を出している。私は、作者は家のような人工物を描こうとしたのではなく、自然の神秘的な光を表したかったのではないかと思ひます。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4202 氏名 浅井 董

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。」とあり、そこに「葬式の午後」と書かれている。

まず主人公は中心の女性だと思いました。浮いている男性とくらべて、表情がしっかりと読みとれることと、体や肌がしっかりと描かれていることから、彼女からは生か感じられます。逆に浮いている男性は顔がぼかされていて表情は読みとれず、骨格も歪に歪に歪んで、肌の血色も悪いので死を感じました。女性は黒服に白い花を手に持っているので、葬式の後なのではないかと思います。キリスト教の葬式では白い花をお供えするので、彼女はキリスト教でしょうか。背景に関しては、女性から左側はハイハイという線でしっかりと描かれているのに、右側は、床がゆがんでいて、ぶらぶらとした線で描かれています。これは浮いている男性の存在と何か関係しているように思います。また女性の服がフツと空気にとけ込むようにぼかされていることが、女性の存在の不安定さをあらわれていると思いました。これらの外面から想像すると、この絵は人の死に直面した女性の心をあらわしているのではないかと思います。全体的に暗い雰囲気ですが、悲しみを表現しているわけではないのかなと思いました。悲しみを表現するのであれば、もっと涙に泣きくずれるとかそういう絵でもいいと思うのです。しかし彼女は泣くどころが驚いたような表情をしています。なのでこの絵は、愛する人が死んでしまったけれど、急なことで気持ちの整理がつかないところに、突然、彼の霊があらわれて驚いている、そして今まで気付かなかった悲しみという感情を客観的に感じてしまい、不安定な心が、彼女の存在ごと彼にひたされて、彼女の生が失われようとしている、という絵ではないかと思いました。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4203 氏名 湯川 愛子

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
誕生日

プレゼントとした独特なこの感じ 見た時に シヤガールの絵
 のことがわかった。けれど題名が出て来なかったの、もやもや
 していた。絵をよく見ると、手がかりにほりぬぐはものを見つけた。
 テーブルの上にあるケーキだ。そして男と女が描かれていて、
 そのうちの彼女の手には花束がある。きっとこの男からの
 プゼントだろう。それらを見て、"誕生日"だということわかった。

この絵の中に見える2人は、恋人同士なのだろう。いや、恋人
 以外にはいかな...。キスをしているということ、恋人同士としか
 考えられない。彼女が花束を置こうとしている時に、不意に
 キスされたのだろう。彼女の目が大きく開いているという事は、
 びっくりしたのだろう。彼の方はいとおそろしく目を閉じ、
 彼女とのキスを感ぜているのだろう。顔が青白いのが気になるが。
 しかしどうして彼の方が浮腫んでいるような描き方をしているのだろう。
 彼女に誕生日を祝ってもらって嬉しかったから？ それとも彼女の事が
 誕生日で、それに対し喜びを感じているから？ どちらの誕生日かは
 絵から読み取る事ができな、嬉しいことには変わりないのだろう。
 とはも幸せなうな絵だ。もしかしたらこの男は、シヤガール
 本人なのかもしれない と思った。

■ 美術感想文

D

提出日: 7月14日

図

A B C D 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4203

湯川 愛子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

帰路

初めて見た絵だ。絵...? 描き方のせいで、~~遠く~~遠くから見ると、編みこみで何かうほ...お織物に見える! 絨毯にも見える。おにたか、感じが可る。

右上には夕陽がある。だんだん辺りも暗くなっていく。黒い線が描くものは、家に見える。屋根とドブと...
...書いているうちに、夕陽ではなく朝陽なのではなかと。思いはじめたが、夕陽で話を進める。
日も沈み始める夕方、帰宅中の風景を描いているように思える。歩いている途中に香ってくる晩ご飯のにおい...
今日のうちのご飯は何だろうと考えながら歩く...
夕陽と街灯の明かりの中、歩く...

そんな風に 日は思う。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日

図 A B C D

 1点提出 2点提出学生番号
4204

氏名

内田 侑岐

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

戸惑いに止まる時間

部屋の中、男と女がキスをしている。という状況を読みとる前に目に入ることがある。男の体が異常なまでに曲がっているのだ。女は驚いた顔をしている。男の存在により不思議な空間をつくり出している。現実にはこのような男がいてキスをされれば誰だって驚く。だが、女はそのことで驚いてゐるわけではないだろう。そして作者もそのようなことで驚いている状況を描いているつもりもないだろう。まず、この二人の関係を考えてみた。この部屋に住んでいるのは恐らく女である。男は客であろう。なぜなら女が花束を持っているからだ。花束は人からの贈り物であると仮定すると、男が女の部屋に入る前にプレゼントしたと判断できる。そして女を追うようにしてキスをしている。これらのことから男が女のことを愛しており、女の表情から読みとれる驚きは、相思相愛で恋人というわけではないことが分かる。

この作品において、男は動きがあって顔には優しさがでているなどと思う中、必死さを感じられた。体の曲がり方がその原因であろう。数秒前では男と女は向かい合っていて、女が通り過ぎてしまった姿を追っている様に見えるのだ。動きを感じさせる男に対し、女は時が止まっている様だ。足を見ると歩いていた感じで全体的に前に倒れている。まるで男から離れようとしていたかと思えてくる。

この作品はこれからの出来事を想像させず瞬間だけを見せた不思議な空間をつくりあげている。ここまでストーリー性を感じさせるのに先が読めないことなど、なかなか無いと思う。私はこの男と女の姿で感情や過去の様子を読みとれるように考えた作者を素晴らしいと思う。あと、花束を持っていることから、女は男に負の感情を抱いてはいない。つまり好意的ではあると思う。先を想像できないが、女が男に対し深い愛があるかどうかによって男の運命は変わるだろう。作者は相思相愛になってほしいのだろうか。私はそうは思えない。私が思うに、作者は二人の想いの差を出したかったのではないだろうか。女が男の想いを理解するまで戸惑った心のまま止まっているのだから。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C ④

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4204

内田 侑山岐

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

月光に浮かぶ。

空には満月が浮かんでいる。照らされているものは家だろうか。全体を青と黄色のドットで表現している。ただそれだけで何を表現しているのか分からない。何か見逃がしているのではと思い、何度も見つめるが細かな色には気が付くことはできなかった。

ドットの模様がたんなる人の姿や動物に見えてくる。目を細めると明るいところと暗いところに分かれて見えてくる。そうして見ると家ではないように見えてくる。扉に見えていた線は本当に家の出入り口なのか。ならば明るいところの形が不自然で家でないこともアセールしているようなのはなぜなのか。屋根だと思っていた三角はピラミッドなのかもしれない。明るいところは砂漠で、扉だと思っていた暗いところは手前にあるものではないと見えてきた。ピラミッドと手前のものは逆光で暗くなっている砂漠は月の光で明るく照らされていると考えることができる。別の見方では明るいところは崩れかけの建物で背景に山があるとも考えられる。しかしどれも自信が持てない内容だ。作者はストーリー性を必要としていない。月の光の美しさもドットで表現しようとしたわけなのではないだろうか。ところどころにある明るい色の四角い形は光の表現だと思う。その中で強く光をあびるものと逆光で暗くなったものを描いているのだろうか。恐らく作者は夜の満月の光の美しさを感じ表現したくなったのではないだろうか。別には何か照らされているかはどうでも良いというように感じるのは。それよりも満月があって輝いていることを表現するためには物の情報を減らしたように見え、色で表現したこと線だけでは見えない物、つまり光を描いたのだ。線によって見えるものは、そこに在ることが見て分かるもの(家とか)で、色だけで見せているのはそこに在るの分からないもの(光)だと私は思う。あえて情報を減らしたことでより月に目がいくのだ。作者の表現のしかたは面白く的確であると言える。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B C D

- 1点繰出
- 2点繰出

学生番号 4205 氏名 岩瀬 朝子

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
 暖かい 調べて解った=題名 → パルナッソス山へ

暖かい感じがする絵画だなと思った。悲慮り的とか恐怖とかそんな感じはするのかなと思っ、て絵を眺めても、その様な印象は全く受けず、どうして暖かい感じ、優しい感じの印象ばかり受けるのかなと思っ、た。その理由を考へてみる。月もしくは太陽らしきものかあったので時間設定を考へてみる。夜なのか昼なのかよく分からない。青い空に黄色い月かある。だから夜という感じもするが、どうして暖かくて柔らかな感じか。昼という感じかしてしまふ。それは絵全体の描き方のせいかもしれない。網目のような点で描かれており、まるで織り物のようだ。だから暖かみや柔らかみや感じするのかもしれない。この絵は何を描いているのだろうか。上の三角形か屋根で家のようにも見えるが、何か違うものなのかもしれない。しかし、家を描いていなくても家のように暖かくリラックスした感じかする。この絵はどのようなことを表現しているのかなと思っ、て調べてみた。作者はクレーであり、クレーの作品を他にも見ると、目に見えるものの姿をそのまま描くのではなく、四角や三角や円に形を変えて描いていた。また、色も自由にしているようだった。解説によるとクレーは「音楽をもとに想像力を広げ、豊かなイメージの世界を表現している。」ということであつた。確かにそう思っ、て絵を見ると補色の青とオレンジが抵抗感なく溶け合つた点と共にリズムを刻みこんでいるような気がする。題名を合せて絵を見ると、昔を感じずにはテンポよく、山の下から順順に登つて行けそうな感じがする。抽象画は一見、何を描いているのか解らず、「なんだ？」と思っ、てしまうが、それは大切なのだと思っ、つ。疑問をもつてよく見ると、何か作者の気持ちか伝わってくるような気がする。この絵を具体的な形では表現しきれない感情を表現しているのだと思っ、た。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図 A B (C) D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4205 氏名 岩瀬 朝子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
 愛 / 調べて解った題名 → 誕生日

奇妙な絵画だな。これが私にこの絵を初めて見たときの感想である。高校1年生の時の教科書に載っており、「なんで人が宙に浮いているのか。」、「体が曲がり過ぎていて。」と変な絵だなと思っていた。しかし今、改めて見ると素敵なお絵だなと思う。その理由を考えてみる。場面は彼女の部屋の中のような気がする。絵に奥行はあっても、パース正しくないように、線がまっすぐでなかったりする。むしろワイエスの絵のようにこの部屋がリアルで、まるで写真の描かかっていたらどうだろうか。絶対に合わないだろう。この部屋にはこの女性のなんたかの気持ちか表れているのではないか。だからなんだか可愛らしい部屋に見えるのではないか。ここで人物について考えみる。女性は花を持ち、前に今にも倒れそうである。そしてそれを止めるように男性がまたしているようだ。男性の体は宙に浮いている。そしてグッと体をよじらせ、キスをしている。男性の顔を体ととてモリラックスしている。優雅な感じである。それに対し、女性はビックリ顔でほっとした感じである。なんだか彼の穏やかで優しい愛に包まれて、女性は彼からの愛、自分から彼を愛する気持ちに気がま、幸せと喜びにひたっているような感じかする。彼女は軽いつらにたっているのではなく、彼と心を通わせることにより、彼と共に宙に浮き、一心になっているのだと思う。彼女が手に持った花は彼女の喜びの気持ちを表しているのではないかと思う。つまり、彼女の、彼の、リラックスした柔らかなメルンな気持ちを表現するためにこのような部屋の描き方が使われているのではないか。ものはたのものではなく、二人の気持ちをより明快に伝えるものなのであると思う。二人が宙に浮いているのは何か他の理由があるのかと思い、シャガールについて調べてみた。シャガールの絵には他にも

→
うらに緩く

宙に浮かぶ恋人たちの絵を見た。マイルドで柔かな色合いで描かれている。また、こちらの絵も柔かな曲線を使っており、二人でどこまでも飛んでいってしまいたいようである。解説には「身も心も浮き浮きする青春の夢心境」と書かれている。本題の絵も似た要素を表現しているのではないかと思った。

「高校生の時にこの絵を見たときは浮いている普通ではない男性ばかりに目が行き、変な絵だなとしか思えなかったが改めて見ると、受けとめやすく自然な感じかい。快楽(疑問を

包み込む)絵だなと思う。

■ 美術感想文

提出日: 1 / 月 1 日

図 (A) B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4206 氏名 萩野 麗

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
 タイトル ミヤカ-ル 「誕生日」

この作品を自らの時、手前初めに目に飛び込んできたのは奇怪な体勢の
 二人、中心に居る花を持つ、T-女性と、ズリマリ口(口は閉じた)、何となく
 と曲げられた顔をしている。おそろく果物だ。彼の口は土気色で、生気が
 乏しく、~~取れない~~。しかし顔は非常にやわらかく、おとT-がT-が感じられる。
 T-女性の手は、肌は生々しく、重宝にも生気が感じられる。
 しかし顔は、生気がないとは言えないが、目を見開き、虚空を見つめている。
 T-は、この二人に何の意味があるのだろうか。呪い？ 未練？
 背景に目をうつろ。背景は沖か"が"と目立ち、平面的に物をうつろ
 いる事があがる。奥行きも、空間感も、質感の遠いもあり
 感じられる。窓の外も、よくあがら"。木の壁があが"。
 部分に"ある。

この作品の名前を私は知っている。ミヤカ-ル作、「誕生日」である。
 作品についてはよく知事、いつか私も知ら"が、私はこの絵が
 「誕生日」であるとは思"。A-7-1-1の画面全体からは、
 理解が"。"零回気"に"出"ている。初めには"が"で、
 今-7-1-1の"月"と、まじり、彼女一人"食"というのか。
 しかし、この絵は1915年、ミヤカ-ルが結婚した年に描かれたものだ。
 私の見た解説では、「浮遊感」「幸福の気持ち」が"表"に"出"て
 とあったが、それは"には見えない"。
 私は絵を描くが、こ"は"系"感情"を表"する人"を"描"く"の"感"。
 感じ"。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4206 氏名 萩野 麗

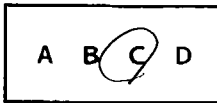
作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
 タイトル モザイクの夜 (1970年 - 1907年 12月)

ワシはこれを見て、どうしてモザイクが私の視界に拡がるのかと不思議に思った。
 あれは色彩の青に美しく映えるスウェーデンの天。それを、空で見る。
 朝が来るといい、夜が来るといい、それは夜の夜が来るといい。私は夜に
 あると実感した。私は夜の夜が好きだからある。
 ある、それはそのAは白の線に、月の光と、細長い雲、そして
 には黒い線が、線が見える。空のこの線が強くあるこの線は
 何を示しているのか定かではないが、私はこの線が空に入っている。
 特に何かあるわけでもないのに、存在感を放つこの線が、これが好きだ。
 上を見ればその下には白の線がある。そして画面を二分する。
 上と下で別の空間をつくり出しているように感じる。
 洞くつが何かの入口だろうか、A-スリ青と、黄色の部分か
 不思議な形にふらふらしている。そして何かの入口があるわけでは
 なく通るとどこかに通っているという事だろうか。
 ここを通るとどこかにあり世界に行くのだろうか？
 遠くから見ると単色に見える画面も、近くで見ると、色々々として
 多色で、四角形が見える。モザイク画なのか、油絵なのか。
 おかしいが、この色使いもとても好きだ。
 一色のように見えて、深く、画面の隅には世界が広がっている
 ように思える

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図



1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4207

佐々木絵麻

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

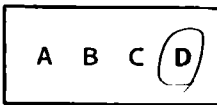
自分で考えた
タイトル ファンタジーがはじまる

この絵を見て一番最初に持った感想は、なんかここからファンタジーが
始まりそうだなーというものだった。まるでファンタジー小説の挿絵みたい
な絵だなと感じた。きちり写実的でもないし抽象という程わかり
づらい絵でもない。不思議な絵だなと思った。タチも独特な感じで、
この絵の作者が他の絵を描いてもう一発でこの作者だとわかりそうだった。この絵
を見て、ファンタジーが始まりそうだなと思った理由は、何となくこの絵に物語が
あるような気がしたから。絵の登場人物の2人の男女。男の方がとても
不自然である。宙に浮いていて、首があらゆる方向に曲がっている。そして花を持
て走っているような感じの女に口づけをしている。私はこの男は、人間に化けてい
る何かに違いたいと思った。なぜなら宙に浮いて、首が折れている人間など
いるはずがないし、男の顔をよく見ると、顔色がとても悪いのである。それが
人間であるはずがない。私が思うに、この男の正体は悪魔だ。悪魔が化けて、
女の元に現れたのだ。女の表情を見ると、目を丸くしておどろいている。この男の口づけは
不意打ちということになる。この絵の物語は、悪魔が人間の女に化けて、女に近
づくために人間に化けて姿を現したけれど、まだ慣れてなくて色々と不自然な部分がある
という感じかなと考えた。私の妄想が1人歩きしてしまっただけでそれがこの絵の魅力
なのかなと思った。この1枚絵だけでいろんなことが読みとれるし、想像できる。
いろいろな事を想像できてとても楽しく観賞できた絵だった。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図



1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4207

佐々木絵麻

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

自分で考えたタイトル 安心

一目見て何の絵だか全くわからない。抽象的な絵だなと思った。何だか景色、ほい絵であるのはわかる。色は濃い青と黄色やオレンジが少しまぜた不思議な色だ。夜か昼か、どちらにもとれるが、私はなんとなく夜の景色かなと思う。どうやって色を塗ったのか知りたくなる夕方の絵だ。おそらくこの絵のメインであろう単純な三角の形をした直線と、アーチ型をした線が黒い線で描かれている。角形は山かピラミッドに見える。アーチ型は何かの扉のようだ。もしかしてこれは現実にある風景で作者の解釈を絵にしたものなのだろうか。

この絵をじーっと眺めていると、とてモじが落ちつく。じーとして、頭が何も考えてない状態になって無になれる。絵の意味は全くわからないし、読みとれないが、暗い雰囲気もなく安心してできる。布のような質感の素材がそう感じさせるのかなと思った。それと、青色は少し暗めたけれど、まんまんなく入っている黄色がうまく調和しているのが安心してできる雰囲気を作っているのかなと思った。

悲しい気持ちになって自分の事が客観的に見えなくなった時にこの絵を見ると、落ち着きそうである。ピラミッドみたいな山や、扉の正体はわからないけれど、そのミステリアスさが絵のイメージとして、一体感が出て、上手く言葉に表せないけれど、しっくりきてあちつく。最初はなんじゃこりゃ感想書きにくい絵だなとか思わなかったけれど、見ているうちにどんどん好きになった。わかりにくい絵だからこそ、この絵のイメージそのものが心に直接伝わってくる感じで、言葉では言い表せないとても心地いい気分になれる絵だ。99%この絵の説明を聞いてもよくわからない気がするし、聞くと印象が変わってしまう気がして、この心地よさはこの絵を見たらいつも感じたいので、説明とかは聞きたくないと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月4日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4208

麻郷地 土ゆり

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

再会

この絵の中心は女性と男性。女性は手すく立っているのではなく、けこう前傾姿勢でなんだか不自然に見える。花を持っているが女性の向かう先には花瓶がないので花はどうするのだろうか。女性の目がすごく見開いているように見える。前傾姿勢になる時は走っている時なのでこの女性はちょっと急いでいるのだろうか。花は花瓶が前持って用意されていないので人がぐもぐもしたものなのかなと思う。

がしかし、花のくまの所を見たが花は包装されていないので、女性がつけたのだろうか。男性は地についておらず、完全に浮いている。手が無い。首が不自然すぎる。普通だったらありえないまがり方をしている。女性に比べて肌の色が青くて生きてる感じがしない。このことから男性は死んでいる!? 幽霊だ。女性と男性はキスをしているので、恋人か夫婦。男性は目を閉じていて、女性は目を見開かしているので男性から女性にキスをしたのだろうか。それで女性は驚いた表情をしていると思う。しかも男性は死んでいるので、死んだ人が見えるのもおかしいし、出てくるのもありえないし、生きている人間と接しているような感じになるのもおかしいから目がぼろと開いているのだろうか。女性が持っている花は男性のためにつけたものなのかなと思う。男性の遺影にかざろうとしていたのかな。部屋にはもの家具が少ないように感じる。部屋の隅がない。床とかべのさかい目がざつな気がする。この絵の中で起こっている状況が、ありえない状況、死んだはずの人とキスをしているから部屋のかがは少なく、部屋の広さもよくわからないようになっていっているのだろうか。男女がメインだからその周りに目がいかないようあまりよいけいなものを描いていないのだろうか。そして、家具やかべ、床があいまいな感じになっている、中心のメインを目立たせるためにそんな気がした。

■ 美術感想文

提出日: 7月4日

図 A B C ④

- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4208	麻郷地 さかり

タイトル

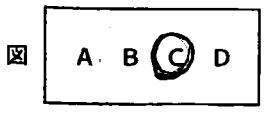
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

山の雪どけ

三角形と入り口のようなものがあるので「家なのだろうか」
 でも、入り口のF二にななめの線があるし、入り口付近は
 暖色系の色が使われていて、ななめの線付近は寒色系
 の色なので統一感がない。なので、「家ではない気がし
 てきた。三角形のすぐ横に太陽があるので三角形はもしか
 して山なのだろうか。太陽かなと思ったが青系の色が
 たくさん使われているので空は、夜空で太陽じゃなくて
 月、満月だと思う。月の上には二等辺三角形があり
 画面の上の方にあるので雲のよう^{暖色の}に見えた。三角形は
 寒色で入り口は暖色なので山の入り口は雪がとけてあた
 たかくて、山頂は雪がまだ残っているのを表現している
 気がする。色がいろいろかまなっている、全体的に。これは
 かまなるというのは段々となっている気がして、山をどんどん
 登っているのを表現しているように思う。

■ 美術感想文

提出日：7月14日 月



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4209 氏名 野村 結衣

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。」とあり、そこに「切ない幸せ」と記入されている。

三人の男女の人物像だが、女性は地に足をつけているが、男性は宙に浮いていて二人はキスをしている。表からすると女性は驚いている様に見える。喜ぶなどのプラスの感情は読みとれない。部屋はベイズリーの木柄のフロアリングやオレンジ色の窓から見える商店街のような街並みそこから連想するのはヨーロッパのある部屋の一角。二人は恋人同志だったのだろうか。思性が宙に浮いている点からこの世に生きている人ではないのだろうか。顔の色も女性と比べて青白くかなり普通の人間にはできない体勢である。壁とテーブルの距離もフジフマが合わない描写がされている。作者はもっと抽象的に描くことにより二人の存在を目立たせたいのだろうか。テーブルの上のものに注目すると見布、ユップ、皿、灰皿、たばこと日常的な雰囲気が出ている。テーブルの周りの配色は明るい感じで個人的に好きだけど全体的に絵を見ると冷たい色がまとまっている。よく見ると布の質感がいちばん分かりやすく描写されていて、やわらかい印象も受ける。男性も女性もしたやかな曲線で形がとられているし、やわらかい質感があるのになぜ色は冷たい配色にしたのだろうか。それとなぜ女性は花束を持っているのだろうか。やはり男性はこの世の人だとは思えない。死んだ恋人を思いながら窓の外に花をそえようとした女性に、ふと天国から男性がやって来てキスをして、女性は驚いている。そんな絵だととらえられる。もし、自分が絵の中の女性だったら、その不思議な出来事は、切なく幸せに感じる事だと思おう。もし、男性だったら、自分のことを想ってくれてありがとうと感謝を伝えたいと思う。その様な絵だと私は感じた。最初は女性にプラスの感情は読みとれないと感じていたが、質感や描写を読みとることで、切ないけど、またやかな幸せも感じる事ができた。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4210

津嘉田真梨子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

風景

D

この絵に描かれているのは、画面いっぱいに描かれた家屋とほろかり赤みがかった黄色に浮かんだ月の風景なのだろうか。どうもそういった簡単に読める絵ではない気がする。少なくともそういう深読みをさせるような絵だと思う。暗い青と橙の組み合わせが、蒸を着いた雰囲気を感じさせる。家にしては傾きすぎている気がしてきた。なんと線も歪んでしまっていた。これは家と呼ぶには欠陥がありすぎる。たとすればこれは家屋ではない。別の何かなのではないか？ 三角形から想像できるものといえは「山」だろうか？ たとすれば黄みがかった細長い三角形は雲？ 簡単な図形の構成で描かれた風景画のような気もしてくる。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4210

津嘉田 真梨子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

死別

この絵は全てが曲線的に描かれていて、まるで夢の中にいるみたい。男女が今まさに唇の解れそうな位置で顔をつき合っているこの2人は恋人なのか、夫婦なのか。壁にもテーブルの上にもタペストリーがある。この女性はきっと織物を作ることを生業、もしくは趣味としているのだろう。ではこの男女の状態にはどんな意味があるのだろう。男性を見れば、地に足がっていない。おまけに女性と向き合っているのは顔だけで、体は女性に背を向けてしまっている。この男性は何か浮き足立っている？女性と真陰に向き合っていない？と印象があった。

しかしここで男性の顔色が健康なそれではないことに気がついた。優れない顔色、女性が持つ花束、女性に背を向けた体勢、そして普通ではありえない男性の動き...ここから導き出せるのは、「死別」ではないだろうか。それを考えると、恋人を弔おうと花束を持つ女性と、死後の世界へと向かう前最後にと、女性に別れのキスをしようとしている男性の図が見えてくる。

作者はこういった恋人たちの愛を、「死別」というテーマで描いたのではないだろうか。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図 A B (C) D

1点提出
 2点提出

学生番号 4211 氏名 野口 朝世

タイトル

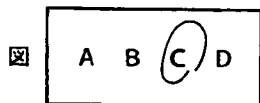
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
プレゼント

不気味で不思議な感じがする絵だ。まず最初にキスをしている女の人と男の人が目に飛び込んでくる。どちらが男の人で女の人なのかは、顔ではあまり判断できないが、服装で判断することができた。男の人ほどくっついて浮いているのだから、くっついてこんなに首がまがっているのだから、もしかしたら人間ではないのだから、なにがなんでもキスがしたいという気持ちを表現したのだから。男の人の体制の意味を長い時間考えたのだから、疑問が次から次へとわいてくるだけで、答えが見つからなかった。

男の人でも女の人でもとても躍動感あふれていると思う。女の人が手に持っている花は男の人からもらったものなのだから。もらったもののだと考えると、男の人と女の人が恋人同士だとしか考えられなくなった。ついつい男の人と女の人に目が行ってしまふのだから、その周りの家の風景もとても面白く描かれている。家のかべやイスの足が歪んでいるように描かれていたり、机の足が一部、球体と球体で切り離して描かれているのもとても面白い。また、机に置かれているものは、コップとお皿とティフは分かるがその他の2つはよく分からない。お皿にのっている赤い点々は何なのかよく分からないが、とても気持ち悪く思う。ベッドの上の壁に貼ってある布が、色鮮やかに、そしてとても細かく描かれていて、絵全体をにぎやかにしているように思う。不気味で暗い印象と同時に、にぎやかな印象も受ける作品だと思ふ。また、窓が2つ描かれていて、大きな窓の外には街の風景が、小さな窓の外にはドアのふたが描かれていて、広がりのある作品になっていると思ふ。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4212

熊瀬美弥帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

死

この絵を見ても、なんでか気分がどん引きした。どん引きとは言っても私自身急に気持ちが悪くなって、それを引きずる程大きな影を与えられた感じではない。なんでか、今の気分が、この絵を見たことで一段暗くすと下がったようなイメージに近いと思う。それくらいにはこの絵は暗い。この絵からは新鮮さや明澄さはまるで感じられないのだ。なんでか、生気がない。

この絵の登場人物は二人の男女のようだが、構図がとてもおかしい。そして特徴的だ。男は床から足が浮いていて、足のあたりがおりえないくらいにくねくねとした曲線を描いている。女の方がしっかりと太さのある足をしていくだけに、彼の足を不自然なうねりが余計に際立っている。また男の顔の色は灰色がかっていて生気がなく、首をめいぽい中ばして女に口付けしているが、この二人は恋人なのだろうか。女がかっと目を見開いて驚いているのもふまえると、男はすでに亡くなった恋人の霊なのかもしれない。女が手に持っている花や、女の着ている黒い服も、よりいっそう「死」を感じさせる。これがそういう場面だと考えると色々つじつまが合う。たくさんの家具などからここは明らかに家の中だ。「喪」の期間は、親族が一定期間、世を避けて家に籠もり、身を慎むらしい。この絵は構図的にも、不思議な閉塞感が出ている。親族といふことは夫婦だったのかもしれない。まったく違うかもしれない。この女はこの部屋で何を思って過ごしたのだろうか。この男は何を思って女の前に現れたのだろうか。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4212

熊瀬 美弥帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

家と月

パッとこの絵を見て、まず「家と太陽？」と思った。いや、もしかしたら、周りが暗い中で夜に見えるから、これは月なのか？とも思った。それにしてもこの丸いものはあまいだ。その上にある謎の亀裂のようなものはもっとよくわからない。この絵は一体なんなんだ。

そもそも私はこういう抽象画は、苦手だ。何を描いているのかが分からないうちに、作者自身も何を思っただけかかわからないからだ。何かメッセージ性はあるのか、あるとしたら、それを伝えようと思って描いているのか、どうせ伝わらないと思ってただ描き起しているのか。すべてが不明だ。こういう絵を目の前にすると何をしたいかわからなくなるのだ。自然に感想が出てこないという表現が近いかもしれない。それでも気になったことと言えば、この絵は何を使って描かれたのだろうかということだ。すべてが細い四角形でできているような気がする。一番前のゲームに出てきたドット絵を見ている気分だ。同じ色の四角形が集まって大きな四角形を作り、それが画面を埋めている。屋根とドアらしきものの境界線だけは、しっかりと黒でぶちどられているが、この2つの線があるだけで、なんだか家に見えるのだ。とても単純な線なのにすごい。後から書き足したのか、最初から描いたのか。さんざん、こういう抽象画は苦手だのよくわからないだの言ったのだが、もし飾るなら、こういう類のよくわからない抽象画だと思う。よくわからないからこそ、それで割り切って、何も考えずに「これはこういうものだ！」と向きあえる気がするのだ。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4213

鈴木真梨奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「自宅と月」

「きれい、美しい」そんな印象をまず持った。まるでパソコンのExcelで描くドット絵のようだと思った。その中で「黒い線が」とても目立つ。その線は、家？屋根、ドアを表しているように見える。どうしてそう見えるのかしばらく絵を眺めていると、右上のオレンジの月のようなものに目がいった。その月を手で隠してもう一度この絵を見ても、なんだかあまり黒い線に目がいかない！
 なんて家のようにみえていたが、そうではなく、線と色の、かなり抽象的な絵になった。月を加えてもう一度見ても「家の絵」である。月との大きさや家とを勝手に脳内で比べて「家」だろうと判断しているのでは、と想ったりする。

なのでこの絵は「月がいいね」と思うと同時に、作者が家を強調したかったのではないかと考えた。そんなに細かい色と点(四角)で描かれているのだから、よほど思い入れがある家だろう。思い入れがある家、といえば私はその作者の自宅ではないかと予想する。私は、思い入れがあるものの絵をよく描くので、そう思う。そんな考えもあるし、「三角屋根」は私の家と同じで、とても親近感がわく絵である。

よく見ると、点(四角)の中に小さい赤やピンクがある。私は寒色の中にひそかに暖色がある、といった配色が大好きである。きれいだ。

そして気になるのが真ん中の突き出たクリーム色、ドアのようなものから明らかにドアの部分ではない線が延長？されているところだ。そこがあるからこの絵はつまらない。おもしろさもある。

全体的に、丸、三角、四角 という単純な形で構成されている。

アウトラインがくっきりしていて、とても見やすいのに色は複雑。配色が私好みで部屋に飾りたいと切実に思う。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日 月

図

A	B	Ⓒ	D
---	---	---	---

1点提出
 2点提出

学生番号	氏名
4214	佐々木 歩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要編する。

ア=ヴェルセル

平面的な印象を感じた。部屋の中で、男性が女性にキスをしているのだと思うが、男性の表情とは対照的に、女性は驚いたような顔をしているのはなぜだろう。足どりも、女性の方は急ぎ足というか、焦っているというか、そんな感覚がある。自分は、この絵の主役を女性だと思い、そこから考えることにした。まず、彼女の足は、歩いているように見える。というよりよく見れば、歩いていたけど、なにかにつまずいてしまったようにも見える。彼女の目指す先には机があるが、彼女は手に持っている花をそこに飾りたいのだろうか。

この絵が発する不自然な雰囲気は、男性の存在が生み出しているのだと思う。まず、赤、ほい暖色を基調とした部屋の中で、彼が着ている服はその補色である緑であることは、絵のなかで彼が浮いて見える要因のひとつだと思う。それに、男性の足が床についていないのはなぜだろう。さらに、首も難しい方向に曲がっているし、よく見ると肌の色が女性より鈍い。この部屋の中で異質の空気を発しているが、もしかすると彼は幽霊なのだろうか。

そういえば女性の服装は喪服にも見える。女性は、亡くなってしまった男性を悼んで、花を供えようとしているのかもしれない。その時に幽霊になった彼がやってきて、もしくは、彼女自身が主観的にふと彼の愛を思い出して、驚いてしまったのだと思う。

この絵のテーマは、二人の愛だと感じた。それはキスという単純なメッセージを読み解いた単純な回答ではなく、この絵全体が表していることだ。ロマンチックな絵だと思った。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日 月

図

A B C ④

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4214

佐々木 歩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

文明の夜

モザイク画だろうか。全体的に青くて、静けさのようなものを感じる。右上に月のようなものがあるので、夜の絵と考えると良いだろう。月の上には雲のようなものがある。黒い線が見えるところがあるが、これはなにかの輪郭線だと思う。三角形のようにとがったものと、アーチ型のようなものが見える。

この絵をモザイク画として想像するが、そもそもなぜモザイク画で表現したのか。自分にとって、モザイク画の興味深いところは、小さなかけらが集まってひとつの形を作っているところだと思う。考えると、面で見える三角形は、エジプトのピラミッドと見ることできると思う。古代人が、ひとつひとつ積み上げてつくった努力の結晶だからだ。そうでないとしても、下にあるアーチ型は、なんだか人工物のような気がする。トンネルの形のようにも見える。パッチワークのフギはぎのようなものもちらほら見える。文明の発展という意味で見ると面白いと思った。

主に青と黄色で構成されている絵だが、黄色の使い方も気になった。月で夜を連想したが、案外黄色の部分も多いからだ。これは月によって光の影響を受けているのか、あるいはそのもの自体の明るさなのか。

この風景の中には、感情移入できる生き物はいないのだろうか。というよりも、まさにそれがこの絵の静けさの正体なのかもしれない。落ち着いた色合いに安定した三角形構図。あたたかみを感じさせる月。

どこか詩的というか、風情のある作品だと思った。

■ 美術感想文

提出日: 11月14日

 A B C D
 1点提出

学生番号

氏名

 2点提出

4215

垣地 亜由香

タイトル

作中の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

邂逅

まず、画面は薄暗く色もにごった感じで不気味な印象を受ける。表現も具象なのか抽象なのかあまりな感じがするが、作者はきっと画面の中央に描かれている二人の男女が描きたがったのだらうと構図の配置から見てとれる。ならばこの絵画は具象なのだらうか、しかし男のほうはハビのようにくびがぐにやりとおがな方向に曲げられていて、そもそも宙に浮いている。そして女性のほうの瞳には男のことが見えて、似たりやうな虚ろな瞳をしていて、手には花を持っている。こうして見るとこの具象の仮面を被った抽象的な世界で女性だけが唯一実在し、具象的に描かれているのではないだらうか。部屋の描き方は一見デッサンかのような人間が描いたように見えるほどに110-スがバラバラでつたように見える。しかし、これは「人」の視点を除くための工風ではないかと思う。110-スとはそれを見ている人物のアイバルの存在がなければ成り立たないものだ。つまり「この絵は誰かの瞳に写った風景」として描いているということになってしまう。作者はこの部屋を風景にしたいなかつたのではないだらうか、宙に浮いている男も同じだと思う。「この男は人間ではない」、そう見た者に伝えたいのではないかと思う。だが身体を透けさせたり、天使の輪をつけたりするのはあからさますぎるのだと思う。あくまで人間として描かないとこの男の人間離れた不気味な気持ちは出せなかつたのではないだらうか。そうやって見てみるとなんだか男から神秘的な神秘さを感じられるような気がしてきた。女は黒い衣装に身を包んで花束を手に何かを仰ぎ見ている。本当は女が立っている場所は教会や墓地で、これは男の葬式なのではないだらうか、女は昔男と暮らした部屋を思い浮かべながら花を添えようとしていて、それに答えるかのように天から降りてくる男が口づけをしている。そんな絵に思えてくる。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4215

垣地亜由香

タイトル

作風の題名が押った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

まず、この絵の手法から考えてみる。線ではなく点で構成されているように、恐らくモザイク画の一種ではないかと考えた。青からオレニジまでの色調を中心にまとめられていて青が多くつがわれているが、あたたがな印象を受け。トコトには暗い色も多くつがわれているのだがこの青からはむしろ夜の明るさを感じられる。真夏の暗く刻み込まれた夜に月家のあたたがな光が刺しこんだような、そんな明るい色に感じられる。

この絵画には平面的だが家と月が見とれる。月は画面上で最も明るく、彩やかな色で描かれているので太陽の可能性もあるが、ここは真夏の夜を想定しているのだから月とすることにしておく。太陽でも月でも恐らくこの絵は空ではなく夜空を描きたかったのではないかと考える。家はものすごくあまりに描かれており、かろうじてわかるくらい情報しか我々に与えてくれない。屋根との境界もぼかされていて、最後まで引かれていないし、ドアのようなものがあったら山だと思ったかも知れない。もしがしたらこれは山にトネルを掘ったものなのかも知れないと思うほどだ。それに比べて空のほうにはっきりと印象的に描かれていると思う。暗い青にオレニジと言う色相的にも明度、彩度的にも対極にあぶ色を置いてあり、くっきりと円の形が見とれる。青とオレニジ、そして赤空がX1の題材ととらえて良いと思う。この赤い細長く入っている形はなんだろうか？これは雲だろうか？オレニジの月と赤い雲、家のようなものにもまるで映し鏡のように似たような色が入っている。

もっとも入っている色はずっと同じ色でもあるのだが、山形の家のようなものをそれと表現しているのは「扉」の存在が大きいの、これは「人工物」を表しているのではないだろうか。そして空は「自然」を表しているものだと考えられる。この絵画は自然にかこまれた人工物が自然のあたたがな光にぼんやりと浮かび上がってくる人工物の様子を表現しているのではないだろうか。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4216

飯岡 千織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

(自分で考えたタイトル) 「我が愛する伴侶へ」

空間のあらゆるものが歪んでおり、重力というものが感じられない。これは夢や幻想の世界なのだろうか？ 手にはもろろんだが、男性が人体構造上ありえない体制をとっていて、さらに肌の色も青白いを通りこして青灰色をしており、生気が感じられない。彼は生身の人間ではないだろう、幽霊であろうか？ しかし表情はとても穏やかで、深い優しさを感じる。対照的に、女性の方は肌が幾分白いが、ほんのりとピンクが差しており、柔らかく優しい雰囲気があり、ちゃんと生気もあるように感じる。この人は生身の人間だと思いつつ同時に、この女性がこの空間から浮いている存在だと気づく。男性はというと、この空間にしっかりとなじみ、むしろその一部化している。だからであろう。女性が異世界から突然やってきたかのような印象を受ける。

窓の外の世界を見てみると、アスファルトで舗装された道のような場所にこの家が建っていることが確認できる。普通の家であればそのような所に建たない。つまり、この空間は現実の世界を描いているのではないということを示している。

これらのことから一つの物語が見えてきた。

几年前前にこの女性の夫—この男性—は交通事故で亡くなった。命日になり、妻は事故現場にも花を供えようとそこへ向かった。あと少しで目的地へ到着というところで、突然空間が歪み、目の前にははかつて夫と2人で暮らしていた当初の室内の光景が広がっている。すると、その空間から浮かびあがるように夫の姿が現れ、妻へ優しくキスをする。一方、妻はというと何が起きているのか思考が追いついてゆかず、ただただ驚くばかりである。

夫から妻への優しいキス。それは感謝の表れでもあり、また、永遠の愛の誓いでもある。そんな心がじんわりと温かくなるようなシーンを切り取ったこの絵のタイトルを「我が愛する伴侶へ」としようと思う。この空間は男性の心の中にある世界である。とこれまでの考察の過程でそう感じたので、タイトルも男性目線からのものとした。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4216

飯岡 千織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

(自分で考えたタイトル) 「Dear。」

静かなのににぎやかな、にぎやかなのに静かな。目の前で数cmしか身長のない小人がドーンと騒ぎをしているような、なんだかユーモラスな印象を受ける。しかし、それだけでは、どこか品の良い雰囲気も持ち合わせている。

点描のような色の集合体。しかし、とても規則的に並んでいる。点描というと、私は様々な音から奏でられているオーケストラを連想させられるが、この絵もたしかに音の集合体だ。とは思ったのだが、今回は少し勝手が違う。これはオーケストラのような華やかで迫力のある演奏、というのではなく、ソリストによる演奏と言った方が近いのかも知れないが、それもまた少し違う。強弱のない(同じ調子)、織り組で(芯の通った強さはある)、綺麗で柔らかな音の羅列... これらから私はオルゴールの音色が思い出された。

あの不思議と夢の世界へ誘われてしまうあの楽器の音を聴いている感覚と同じ感覚に陥ってしまう。この絵を見続けている今、うとうとと眠たくなってきているのはきっとそのせいだろう。すると、この入口のような黒い太線で囲まれている部分は、夢の世界へと通じていて、そこまで導いてゆくためにこの絵があるのかも知れない。

山のような黒い太線の向こう側にぼんやりと浮かんでいるもの、あれはもしかしたら月なのかも知れない。そして、入口のような黒い太線の周辺が暖色系であるのは、夕焼けが反射しているからなのかも知れない。反射している、ということは、こちら側に太陽があるという暗示だ。太陽が今日も無事に一日の仕事を終え、休もうとふと空を見上げた。そんな太陽目線の一日の終わりを描いているのかも知れない。

「今日も一日お疲れ様。どうだった? ... そう、今日はもう中ぐり休んで、私があなたのために素敵な演奏をプレゼントするよ、そんな労いの言葉と、優しい気使いのあふれる和やかなやりとりが見えてくるような絵だ。きっと大切な人を想ってこの絵は描かれた。

私だったら、そういう絵はやはり大切な人に見てほしいし、自分の作品だったらプレゼントしたい。だから、この絵のタイトルを「Dear。」とした。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4217

明城 理紗子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

誕生日

現実味のない、あり得ない世界が画面に描かれている。私の良く知るシャガールの絵の雰囲気とは打って変わった、暗い印象の絵だ。というのも、私のイメージするシャガールは赤や青や黄などの原色に近い色を独特な色彩感覚で描くというものであるから全体が灰色、ぼくくすんだ色味が用いられているのに驚きを感じた。しかし「誕生日」というタイトルであるから、これからパーティでもするのだろうか、その準備をしている女性に後ろから男性がふわりと浮いてキスをしている。女性の方は目を見開いて驚き気味である。このころシャガールには愛する妻がいた。おそらく、その時の彼自身の浮かれ気分を描いたのではと思う。誕生日パーティーといえば、友達を呼んでワイワイとやるのもいいが、家族だけだったりとか、恋人とかと休日にはひっそりやるのもいい。この絵のように、準備の時から一緒にいて、それからゆっくりおしゃべりしながら窓外の風景を眺めつつ、ご飯を食べ過ごす誕生日も悪くないと思わせてくれる、のびやかな時間の流れがうまく表現されていると思う。初めはなぜ、男性が浮いていて、こんなに無理のある角度で女性にキスしているのが不思議に思ったが、こう描くことで絵に動きを持たせ、感情豊かに見せる効果があるからではないかと解釈した。

人物や家具は抽象的に描かれているも、絨毯の柄が特に細かく描き込まれているというのも、見ていてとてもおもしろい。だが、背景はパースに若干不自然さを感じる。女性から左は直線で正確に引かれているが、右は極端に家具や床を歪ませて、ぼやかせて描いている。これもやはり男性が浮いているということも背景ごと動かして描くことで、男性の周りごとふわふわとした雰囲気を持たせようとしているから、それから壁のシミのようなものが私は気になった。ただ周りの色をほみ出して塗ってしまったのなら、白く消すところだが、シャガールは近くにあるものの色を白い壁に反射させたからたのではないかと思う。それは女性の持っている花束の葉の色とか、男性の服の色とかのことだ。

人物を中心に配置するというわかりやすい構図で、色彩もいつもよりは暗く感じるけれども、補色関係を使って目立たせたりして、全体がまとまって見えるところが、さすがだなと思うところである。一度見たら忘れられないようなインパクトを、鑑賞している人に与えるのも、絵画にとっては大切だと思う。あと、作者がこの他にどのような絵を描いてきたのか知りたくなるという気持ちを持たせることもた。そういう点でこの絵は全てを満たしており、素晴らしいと思う。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4217

明城 理紗子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

パルナッソス山へ

神聖な雰囲気を出している点描画だ。私は最初、この絵は家を描いているのかと思ったが、どうやら違うようだ。調べてみたところ、ギリシャ神話に出てくる、女神ミューズの居住地であるパルナッソス山だということだった。いくつかの色が小さなひとつひとつの点となり、重なり合、て美しい色彩を映し出している。思わず近寄、て見てみたくなる作品である。き、とほでこの絵を見た、ら、息を飲み、糸会の前から動きたくなくなるだろう。

点描の部分以外に、黒で四角形も描かれているのが、普通の点描画とは異なる部分だ。先に全体をいくつかの長方形の色のまとまりで埋めて、後から線を引いて山の形を浮き出ださせたように見える。統一感の中に異型が組み込まれたという違和感も感じられるが、そこがこの絵の見所でもあると思う。空にある丸はオレンジ色ということから、私は夕日を連想した。雲には鮮やかな、少しずう色が異なる赤が使われていることから、山が画面のほとんどを占め、空の部分は少ししかないが、焼け付きそうな夕暮れの中の大きな山が目に浮かんだ。

この作品は正直、解説が無いとわからない部分が多い。タイトルを聞いても知らない山の名前だし、そもそも家だと思っていたものが山だったのだから、絵だけ見ても疑問が残、てしまう。そこで分析的鑑賞をすることで色々なことがわかった。まず、ミューズという神は、音楽・舞踏など、芸術行分野の神だという。作者であるパウル・クレーは、ミューズへの捧げものとしてこの絵を描いたらしいが、この時のクレーは音楽に非常に関心があった。自分の身にした音楽をそのままキャンバスに表現する、という試みをするという経験は私にもある。ただし彼の絵の場合、は、確かに音楽の譜面のようなひとつのテンポを感じとれると同時に、点か音を表しているようにも思える大作だ。この作品から、針を落とせばコードのように、ねじを巻けばオルゴールのように彼の聞いていた音楽が鳴り響きそうである。

この感想文を書いて思ったことだが、タイトルと作品自体がわかっていても、作者やバックグラウンドのことを知、ていなければ、読み解くことができない絵もあるということがわかった。特にこの作品は、知識がある方がより深く自分の考察ができると思った。美術行史を学ぶことも、自分が作品鑑賞をするためには必須であることを再認識させられた作品であった。

■ 美術感想文

提出日： 7月/4日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4218

田村 奈々

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

パルナッソスへ

まるでモザイク画のような美しい点描にシンプルな直線、そして丸が描かれている。ピッと引かれた線と点描の対比がとても美しい。

これはパウル・クレーの『パルナッソスへ』という作品だ。以前パウル・クレーについて調べたことがあったので、絵を見た瞬間にクレーの絵だとわかった。

クレーがエジプト旅行に行った際に着想を得たそうだ。最初はそう聞いて、ピラミッドを描いたのだと思っていたが、パルナッソス山を描いたものだった。

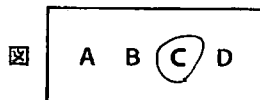
クレーは幼少より音楽の才能にあふれており、絵画の中にも音楽の要素を組み込んでいるのだ。この点描と背景のコントラストが美しいと思った。

大小さまざまな大きさの四角の中にほどこされた点描は微妙に色を変え、まるで夕陽に反射するモザイクタイルのようである。この点描ひとつひとつの中にも、色のちがいをつけているのだという。だからこんなにも様々な色が見えてくるのだと思った。では、そこまでクレーにさせるほど感動したという景色には一体何が描かれているのだろうか。先ほど記述したように、上の三角はパルナッソス山であろう。右には太陽と思わきオレンジ色にらんらんと輝く丸が見える。その上には雲がかかっており、夕焼けに染まっているのがわかる。問題は、左下の直線と曲線を合わせたものだ。

これは何を表しているのだろうか。そうして私は建物ではなにか、と思った。左の形は、ドーム型のように、しっかりと地面に垂直に立っている。そして、深い輪郭線の外は目を引くオレンジが隣接している。これは、建物の向こう側の夕陽に染まる空を表しているのではないだろうか。そのさらに奥には、パルナッソス山がそびえ立っている。クレーは、遠近法をつかわずに、パルナッソス山のある空間を描きたかったのではないかと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月14日



- 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4218

田村 奈々

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

死の接吻

絵の中心には、2人の人物がいる。一人は手に花を持った黒いワンピースの品の良さそうな女性。もう一人は緑色のセーターを着た、宙に浮いている顔色の悪い男性だ。彼は首をあり得ない方向に曲げて、女性へと口付けをしている。女性は不意のことにおどろいているようだ。背景は彼女の家だろうか。壁には布がかかっていたり、机にはこれから食べようとしているパイがあるなど、この家で人が生活していることがわかる。画面としてはキュビズムに通ずる所があり、人物もどこか無機質なタッチで描かれている。

私はこの絵のタイトルは『死の接吻』だと思った。男性のふわりと流れを感じる浮遊感、男女の肌色の違い、そして異様な首の角度から、この男性は「この世のものではない」と思ったからだ。幽霊か、あるいは死神が「死」を象徴するものだと感じた。そして、女性が手にしている花はまわりに比べて淡い色をしている。これが対比として「生」を表していると思った。女性の黒いワンピースはもしかしたら喪服なのかもしれない。喪式の帰りに花を生けようと花店を探していると、はっと目の前に男性の顔が表われ、唇が触れていることに気づく。女性は驚きで、手から花を落としそうになっている。これは男性からの「死への誘い」なのだ。口付けることで、女性を死の世界へ引きづり込もうとしている。女性が「生」の象徴である花を手放したが最後、女性はこの世のものではなくなってしまうのだ。男性が死んでしまったらこの家は、ずっとこのまま朽ちていくのだろう。パイは、だれにも食べられないまま腐っていくのだ。

この絵はとてもの物語性を感じさせる絵だ。一瞬を切り取ったような流れを感じさせる動きや、たくさんの小物が観るものの想像力をかきたてる。観る人によって、たくさんの解釈を生むことができるこの絵は、とても面白いと思った。

■ 美術感想文

提出日： 7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4219

氏名

本多 優衣

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「誕生日」

D

絵のタッチを見てみると、人間が柔らかな線で描かれていて、体の肉付きが柔らかく感じられる。

置いてある家具は、くっきりと描かれているため、触ると堅そうなイメージを受ける。また、人物の表情もユニークな描き方をしている。その場の出来事が把握しやすい。

この作品を描いたのは、マルク・シャガールであり、描かれた年は1915年である。

さらに、その年に何が起きていたのか調べてみると、「母が亡くなった年」、「妻のベラと結婚した年」だということが分かった。だが、この絵が描かれたのはこれらの出来事とはあまり関係がなかった…。

この絵が描かれたのは、1915年のシャガールの誕生日以降だそう。つまりこの絵は、シャガールの誕生日に起きたことが描かれているのである。

この絵の場面は「自分(シャガール)の誕生日に妻のベラが祝うために花束を持ってきたという場面」だそう。恐らく花束を持っている女性がベラで、幽霊みたいに体を捻じ曲げてキスをしているのがシャガール本人なのだろう。なぜ、シャガールの体がここまで捻れているのかがよく分からないのだが、愛する妻に誕生日を祝ってもらったのがよほど嬉しかったのだと私は解釈している。この絵から三人の愛がじんわり伝わってくるようだ。とても心があたたかくなる作品だと思った。

■ 美術感想文

提出日： 7 月 14 日

図 A B C ④

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4219 氏名
 本多 優衣

タイトルの欄に「パルナッソス山」
 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
 D

この作品は、パウル・クレーが1932年に描いた「パルナッソス山(ハ.にて)」という抽象画である。画面全体はモザイクっぽくなっている。更に画面上部のほうにある巨大な三角の物体は、パルナッソス山、オレンジの円は太陽、下部のほうに描かれている凱旋門のようなものは神殿の門なのだそう。また、背景の色が一色でないことから、様々に入り混じった思想を表現しているのであろう。また、クレー自身が音楽や詩といった芸術にも興味を抱いていたため、こんな独特な表現を用いたのではないのかと私は考えている。また、大抵の美術家たちは、どこかの流派に属するものだと聞いているが、彼はどこの流派にも属していなかった。その為自分のオリジナリティを思い切り表現できている。音楽と美術が奏でるハーモニーを表現しているような感覚に取り込まれる作品だと私は思った。

だがしかし、絵の表現方法が独特すぎるため初見の人にとっては、何を描いて表したいのかが分からないのではなかろうか。正直、私も最初、山ではなくピラミッドなのではないかと思った程である。抽象画といえども、もう少し分かりやすく描いてもいいのではないかと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月14日月

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4220

林谷 詩穂子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「彼の命日に」

D

まず一番最初に目に入るのは、2人の登場人物である。この2人について私はこう考える。下にいるのは女性で、上にいるのは男性であるが、注目すべきは、この男性の描かれ方がふつうではないことだ。男性は宙に浮いていて、体がありえない方向に曲がっている。そして女性にはない暗いオーラを放っている。きっとセクシーな人なのであろう。セクシーな彼が、この世に残した彼女に会いに来て、ふいに口づけしたシーンだ。彼の姿が見えない彼女はいきなりのキスの感触に驚き、目を丸くして硬直している。

二人とも服装が黒っぽく、全体的に暗い印象を受けるが、女性のモウ花がその分よく栄えている。その花はセクシーな彼に捧げるのであろうか。彼の命日に彼が現れる、そういうことだと私は考える。

そして、この絵はとても周りの家具たちに違和感というか気持ち悪さを感じた。人物は横から見ているようなのに、横の家具などはななめ上からのアングルで、パースもし、かりしていないように見える。人物とその他の距離感がつかめない。これをすべて狙いなのであろうか。狙いならば絵だけでなく目の錯角としても「ふつうじゃない感」を見事に演出できている。


■ 美術感想文

提出日： 7 月 14 日 月

図 A B C **D**

1点提出
 2点提出

学生番号 4220 氏名 木谷 詩穂子

タイトルの 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
「月と湖」 

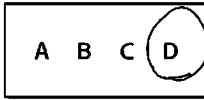
抽象的な作品だ。月があり、これは三角屋根の家であろうか。はたまた、三角のは山で色が黄色、ほく変わる部分から水面であろうか。どちらにせよ、手前の謎の形の謎の青い部分が謎だ。

また、気になるのは描き方だ。よく見てみると四角いタイルが敷き詰められたようになっていて、モザイクのようである。全体的にそのようなタッチで描かれているが、少しそうではないところがある。上の三角屋根のような黒い線とその下の黒い線である。どちらもとても単純なただの一本の線であるにもかかわらず存在感は大きい。この線がなかったらどんな作品になっているだろう。なんとなく三角の頂点辺りとその周り、三角の底辺とその下などは色の違いが大きいので違いがわかりやすい。しかし三角の横の部分はほとんど見分けがつかなく、同化してしまいうだろう。それによって右上のオレンジ色の丸だけが強く目立ち、全く異なった作品になっていることは間違いない。

■ 美術感想文

提出日：7月/4日

図



- 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4222

小林聖実

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

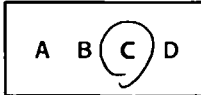
パルサツスへ

まあ、このクレーの作品の色に圧倒された、鮮やかで
美しい色遣い、それぞれの色は、ただ置かれている
 だけではなく、一色一色それぞれ色をつけているのだ。
 色の扱いに長けた画家なのだと思う。私にはまあ、
 この絵のモチーフが「家」だと思う、アーク状のものは
 多分、扉を表しているのだと思うのだが、
 タイトルを知った途端、私の中で豁然としたかった
 解釈が、あつくと落ちたのだ。パルサツスは山だという。
 ことだし、画面を埋めるほどに広大なピラミッド状のものは
 山だし、それはより大きければ「大きいほど」画面から
 下みだし、よりスケール感を増す。一般にモチーフは
 その対象となるものを大きく描けば、それだけで迫力が
 出る。クレーはきっとこのパルサツスの広大さを描いたのだ。
 色に関していうと、ざっくり、青、黄系統の色だけで
 構成されているように見える。では、山の部分にあたる
部分が黄系統なのは何故か、パルサツスは
 もしかしたら、砂漠か、岩肌むき出しの山なのかも
 しれない、青い色は、いうまでもなく、クレーが「この時
 見ていたであろう青空で、右上に太陽が見えるが」、
 オレンジに描かれている、オレンジの太陽といわれて連想
 するのが「夕日」だ、総合してみると、クレーはスチス出身で
 キリシヤにあるパルサツスを、あつかれた、その時見た、
 この夕日に映しだされたパルサツスの光景を
 描いたのだといふのだろうか。

■ 美術感想文

提出日: 7月4日

図



- 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4222

小林 聖実

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

シヤガール誕生日

この絵はシヤガールのシヤガール誕生日という絵である。私への考察を述べてゆく。絵全体の塗り、人物の塗り、単純かつ明度の差がはっきりして、明快で、かつ背景の家具は必要な部分に細かい描き込みがしてあり、飽きがない引き締まった画面である。内装を見る限り西洋、おそらくシヤガールのいたフランスの建物のように見える。モチーフに目を向けると二人はどろやろ若い男女の様だ、人中睡まじく、いつもの昼下がりのいった 和やかな雰囲気 を感じられる、女性のあは花を両手に抱えているところを見ると、木几上にもしかした花瓶があり飾るのだろうか。見切れた部分の机には、チーズのような物もある、フランスはチーズが名産であり、大量消費している国でもある、ということは昼食の準備をしているのだろうか。フワフワと空中に浮いてキスをしているところが、二人の いそいそとした空気を 感じられる。私が思うに、きっとこれは恋人または夫婦のある昼下がりの光景なのではないだろうか、さらにシヤガールは愛の画家と呼ばれるほど、愛をテーマにした作品も多い。もしここに描かれている男女がシヤガールと、その妻だとすれば、シヤガール夫婦のある昼下がりモチーフにした作品なのだろうか。

■ 美術感想文

提出日: 7月/4日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名
 4223 嶋崎 陽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

空

おと見た時 空に見えた。 夜の空。 でも昼の空に見えり。

家のようなてのAが描かれていり。 黒い線が屋根。 戸が描かれていり。

家が夜にだけこいこいしていりようた。 きてきた。 夜中。 静かな世界

で。 昼間は家なのに 家も夜になってしまていり。

この気合は色で描かれて/作られていり。 のたごうた。 (素材)

日いろ? から入るとどう? けれど、~~絵の具~~ 絵の具で点描なのたごうた。

少なくとも、小さく見えていり 四角形で 1つ1つ 描いたと思われり。

どの色も、大きき色も描かれていり。 どれも、作品なるといって。

だが、1つ1つ、色がちがうので 見ているとしても楽しそうた。

オレンジ色の丸の月が描かれていり。

白い部分が雲や霧のようで、こいこいしていり。 とて良し。

本当に夜にだけいり。 子みたいた。

下の方の茶色は何だごうた。 その部分だけ「家」といって感じがいり。

夜中だと思ていり。 たが、日が暮れてからのもたごうた。 明子に時間帯がいり。 がもしろい。

真ん中には黒い線が描かれていり。 白が横にのびていり。

家が夜にだけこいこいしていり。 もたごうた。 印象行のに。

その白が横に、スリルとさだめいていり。 ため、硬い印象受けた。

この家には、年のとった。 かんこな おじいさんか 住んでいり。 いうた。

少し暗くなるとから活動をはじめ。 昼間は寝ている。

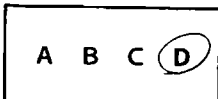
場所の人に、描かれていり。 子供達は、こいこい家しの

庭に入って スリルを楽しんでいり。 いうた。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4224

吉藤 郁子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

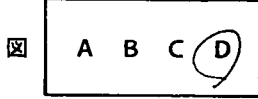
夜の家

全体的に青、ほい色合いで、一列ずつしかり並べたように描いた点で画面が構成されている。きれいに並んだ点は写真で見ると、手でモザイクタイルか、機織りで作った布のようで、一瞬絵ではないかのようにも見える。モザイクのような点描の中に、定規で引かれたような黒い線が走り、画面を区切っている。これは、全体で見ると屋根が三角の形をした家が描かれているのだと思う。家の上に描かれたオレンジの丸は、太陽と月、どちらともとれるが、私は月で夜の風景であると解釈した。

ところで、作者はなぜ夜の家の風景を描くのに、点描という技法を用いたのだと思う。一つ一つ点を、それもこんなにきれいに並べた打つのは大変だと思う。私なら普通に描いてしまおう。普通に描いたら、何の面白みもない。きたりな絵になら、しまうというのもあるとは思いますが、私は「夜だから」という理由を考えてみた。夜というのは、暗いものである。そうすれば、当然、見える景色も風間のようにはっきりしてない。点描でモザイクのように描くのは、夜のはっきりと見えない視界を表現したが、たのびではないかと思う。

■ 美術感想文

提出日：7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4225 氏名

会田 菜南美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

太陽と家

最初この絵を見たとき思いついたのは、静けさという印象である。シーンと静寂かえっている瞬間から、この作品の中に切り取られ時間が止まっているような感じがした。

ここでいう静けさ、というのは早朝の時間帯を想像している。まだ一人一人も活動していないシーンとした静かなイメージである。何か活動している音がなく太陽だけが活動しているから静かなのだ。穏やかに静かに時間が流れているような感じがした。この作品にあふれる青さが、すがすがしい早朝の空気感を漂わせているように思えた。すずけさとさわやかな感じがする。

そこに太陽が昇っていき、少しずつ家に日影を照らし始めている。青のなかに黄色が少しずつ増えていくのは、光の粒のようでキラキラと輝いているように見える。

右上にある切れ目は雲の切れ間に見えた。切れ間は出来たばかりで、太陽がそこから柔顔を出しているように見えた。太陽の光によって、家の中はだんだんと暖まってきて、明るい色がしている。夜明けという感じがする。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4225 氏名

会田 葉南美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

誕生日

私はこの作品の題名を知っているが、シチュエーションについては考えたことがない。今、改めてこの作品を見て想像してみた。

まず目についたのは、空中に浮いている男性だ。どうして空中に浮いているのだろうと不思議に思った。普通、人はこんなに高く宙に浮くことはないからだ。そこで作品名である「誕生日」を思い出した。大きく宙に浮いている男性が誕生日を迎えようとしているシーンなのかなと想像した。なぜなら宙に浮いているからだ。

誕生日という特別な日が男性をウキウキした宙に浮くような気分にした。人は嬉しいことがあつたときは、思わず飛び上がって喜びを表現するものだ。その場面を表現するのに男性は高く浮き、幸せな瞬間が切り取られている。この表現方法は、喜びの感情を表しているのが一目で分かり親しみを感じる。

キスの相手は男性の彼女だと考えた。大切な人と誕生日を過ごす幸せが作品の中にあらわれている。女性の足取りも軽く、宙に浮きそうな弾む感じがする。二人の男女は浮きながらキスを交わしている。そして誕生日を祝うという、二人の未来が感じられた。

木の赤でも目に入る。真っ赤なわけではなく、オレンジ色、ぽいぽい暖かい印象の赤である。このムードある赤から二人の幸福感が伝わった。鮮やかな色彩が画面のなかにあふれ、魅力的だ。

日常の風景を切り取っているので、家に飾りたみたいなどと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4226

中村 小麦

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

ハルの日

キスをしている二人の男女がいる。ふいにくちびるを奪われたのだらうか、黒いドレスを着た女性は目見開いて驚いているように見える。相手の男性は不自然に首をまげ、女性のうしろかめまわり込んでいる。体は中に浮いているようで、手はよく見えぬ。本当に不自然であり、少し不気味な感じがしてしまう。しかし、彼はそっと目をつぶって女性にそっとキスをしていて、その顔は、とても愛情深いな雰囲気がある。その女性のことを大切に思っていて、大切に愛で包み込んでいるという感じがする。女性は、驚いたりしているが、ほほほ、心なしか、赤くなっていて、嫌がっているというよりは、受け入れているといった感じである。

部屋はぐにぐにと歪んでいるような不思議な感じである。部屋にあるテーブルクロスやお皿、壁かけ絵のような物は、1つ1つの模様が、でかいに細かく絵描かれていて、窓から見える外の風景もはっきりと見える。オシャレな外国の雰囲気が感じられる。

改めて絵をひいて見てみると、全体的にグレーがかった色で、暗い色調である。しかし、女性の手本を見てみると、きれいな花束がにぎられている。悲しい絵ではない気がする。むしろ、少し特別な日ではないか、かという気がする。

派手な暮しではないが、誠実な二人のちょっと特別な一日の一瞬をのぞいたという感じで、少し幸せな気持ちになれる一枚である。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C ④

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4226

中村 小麦

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

夕ぐれ

細かい四角形がたくさんあつまって夕ぐれのような絵である。モザイクアートのような。目を細めてみてみると、さらに大きな四角形が見える。これは、色も大きさもさまざまで、四角でないものもある。これを細くするのはとても骨の折れる作業だ。と思う。考えただけで描いてもいいのに、何かめいりそうである。色がたくさんあつまっていて、見ていてあきることはない。楽しい。

角はうた フォルムの夕ぐれの中に一つだけほつりとした丸が見える。これはきっと太陽だ。と思う。絵が青ベースで描かれているから、真昼間の太陽というよりも夕ぐれという感じがする。

なぜ、この絵が描かれたのだろうか。私の勝手な想像によると... ある日、作品作りに行きあまた人が、気分転換に散歩をしていた。その人は川の土手に腰かけて、冷んでいて、なにもしないで、ぼーっとしているうちに、夕ぐれに落ちてしまった。夕日を見ていると、つかぬから目がかすんでしまっていた。すると、家ごしに見ていた夕日が、モザイクアートのように見えた。その人は、すぐに家に帰ってそのまま見えたままに、作品にした。という風である。頭の中にあり風景を一生懸命、夢中になつて描いたのだ。と思う。おと寝る間も惜しんで。これほどまで細かい絵は、私には無理だが好きでいいと、出来ないことだ。と思う。この絵を描く時間は、作者にとって楽しい時間だったのではないだろうか。

図 A B C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4227

上野 雅人

タイトル

追憶

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

この絵は見たことがある... が作者の名前もこの作品名もわからない。見たことがあるというのはこれと似たような絵を見たことがあるからだろうか。

全体的に暗い印象を受ける。

華やかな色は女性が持っている花束のほんの一部にしか使われていない。男女がキスしようとしている、又はしている。

真ん中には黒い服を着た女性たちがいる。目は驚いたように見開いて、どろろかと言うと遠くを見ているように見える。この絵の主演であろうその女性は全身を真っ黒い服装で整え、手には花束がある。花束と言ったが野原でちぎったような雑草のようなものも混じっている。葬式のようなイメージが浮かぶ。そして、不自然に曲がった男性が浮いている。少し盛り上がっているが、腕がないようにも見える。顔には生氣が感じられない。この男性はまさに幽霊のようである。

周りに目を移すと、空間が不自然であるように思えた。左側のテーブルのピースも、その上に乗っかっているものも、棚のピースも不自然で平面的に見える。左の棚は奥行きが深い。もしかしたらこれは窓なのか。窓と考えると奥の方に道路や家の柵のようなものにも見える。

→ ということはここは葬式場ではなく、この女性、又は男性が住んでいた家なのか。左のテーブルを見ると料理があがっており、葬式というより何かを祝っているようにも感じれる。男性の記念日であろうか？ もしくは男性との記念日であろうか？

他にも一部不自然なところがある。女性の腹部。女性の腹部が壁に溶け込んでいて見えるように見える。また、男性の足の下を壁を見ると、壁の区切りが曖昧になっていて、女性のほうに伸びているようにも見える。作者は、壁の白さと女性で、今にも消えしめそうな細く悲しい気持ちや表現したからなのでは？

つまり、この女性と男性の間にはなんらかの恋の関係(女性の左手の薬指に指輪が無いことから結婚していた夫婦ではないと思う)があったが、男性が死んでしまった。女性は男性が死んでも尚男性のことを思い、記念日を祝おうとしていた。そこに幽霊となって現れる男性。驚いているが花の色が華やかで嬉しい気持ちや表現されている。そういう絵なのか、と思った。

■ 美術感想文

提出日： 7月13日

図

A B C ④

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4227

上野 雅人

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

夜景

全体的に冷たい静かな印象を受ける。

ほとんど小さいつぶつぶで描かれている。本がスラーッと並べられているように見える。真ん中に、どんと大きな家、と思われるものがある。左下にはドアがあるが、ドアの右側の壁(?)の構造がよくわからない。尖っていたり、途中から線が途切れていたり。本当に左下のそれはドア、なのだろうか...?

右上にオレンジ色の丸いものが描かれている。バックの青色を考えるとこれは月であり、月の上の細い棒のようなものは雲だろう。しかもその雲は少し鋭利である。雲は普通鋭利ではないが、ここでは夜の空気の冷たさ、静けさ、を表現するためにわざと鋭利に描いたのではないか。

つまりこれはある冷たい季節の家の夜景か。

月の近くにある尖った雲を見て気がついたことがある。画面のど真ん中を横切っている、屋根と壁を区切っていたと思われる線が、その雲の形と同じである。つまりこれも雲なのか?

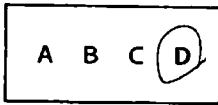
これを雲だとすると屋根の部分は必然と山のように見えてくる。

でもそれだとドアと見られる部分の説明がつかないし、山と思われる部分もよく見ると左側の辺は直線であるのに対し右の辺は少し曲がってうねうねしている。... 一体これは何なのだろう... 夜景であることに間違いないと思うけど... この前の授業で、「具象より抽象の方がかえって想像の範囲が広がり感想に走りやすい」というのを聞いたが、抽象は抽象でもこれは情報が少なすぎて、「冷たい」、「静か」というもの以外に何を表現したいのかが読みとれない。もしかしたら、あえて作者は読み取るのを拒んでいるのかも...。夜景であること以外に何も無いのかも。んー、難しい。

■ 美術感想文

提出日： 7 月 7 日

図



- 1点提出
- 2点提出

学生番号

氏名

4228

高岡 遼

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

パウル・クレー 「Poetry 又 山へ」

資料の 写真で見ると、ピースを編んで描いていこうに見える。

一見 家にいる見え方。 家と月に見える。 夕日を見、山の絵と分かる。 下の方に 女子のドアの 文様 形のもの。 一体何を表しているのかわからない。 月だと思、このものは、太陽がもしあれば、オレンジ色だから。

色に注目すると、何となく青、黒、黄色、白、茶色、オレンジが主。

何となく ちりばめられていて、青も濃い青で 昼間の空のよう 土色に青ではない。 時間がたつと 夜の中に見える。 夜の3、4時分の、まだ明かりが 空に見える。 月が 雲の下に見える。

真ん中 白の線 → この部分、山に 霧、霧の ようにも見えるし、山が 道を ぎざぎざに たたいていこうに見える。

ピースに見えるのは、光沢の 点、点、並んでいこうだからと思う。

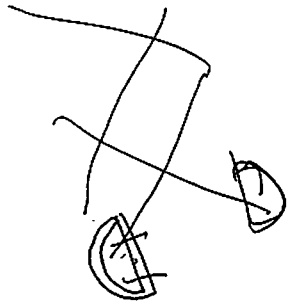
点描のよう、白やオレンジが 連続して 描かれていて、その中に 黒い、白と黒の線、直線と曲線を アセントとして 引きつけて、平坦になり、飽きのない (お菓子?) 味わいを作り出している。

線が 区切られていて、小さい 四角形が いくつも 集まっているので、

図形っぽい 描き方が 好きなんだと思う。

風景画には 合点がいくし、おもしろい。 何となく、

なつかしく 壮大な 感じがある。



PHK



■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図



- 1点提出
- 2点提出

学生番号

氏名

4228

高岡 直

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

エルク・シカール 「誕生日」

正直に言うとその下平こそ絵だと思った。私はリアルな絵が好きだから人物はもちろんだ。背景も、描き込みが中途半端だし立体感もあまりなく、下平とはなれない。でも自分には描けないからなんとも言えない。

シカールらしく男性はものまじい角度で描かれている。たぶんそこをうしろにうつらと思う。髪はさしき女性は一ヶを持て接吻を受けているが、目はどこか上の方を見ている、ものまじい開いている。惚けるのは、シカールのうしろが見当たらないからだ。小さい真ん人を描いている。普段描かないような角度で描いていると、手や足の角度と、隠れている部分と見える部分の関係がここからわかるように描いたらしい命令からなると結局描かずに終わることもあった。

画家なのがこのまじい感じもよいか、そんな感じに思われる。全体的に不気味な感じがする雰囲気だが、壁のうす暗い陰のつけ方は美しいと思う。女性の服の質感もよい。後ろのバンダのよう布の模様も細かい。ミロやピカソのようにどうも自由象、と分る絵とは少し違う。浮き足立ち、という言葉を体現しているのに、深さという感じがしないという批評家が愛の感じをいかにしているのかもしれない。人の肌の色に白いところも気持が悪い。遠近感がおかしいところや、机や椅子の角度が変かるところも気持が悪い。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号 4229 氏名

斎藤 あま

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

誕生日

全体的に、灰色がかかっている暗い雰囲気である。生命感がなく、死を思わせる色合いである。お葬式のような喪失感を感じさせる。しかし床の色は明るめの茶色で、灰色が主体であるのにくすんでいたり濁っていたりというような印象は受けない。色の使い方にかなり気を使って描かれたものである気がする。また灰色が多いのは、中心の人物に目を向けさせるための工夫であるようにも思える。

この絵が描かれたのは1915年である。言うまでもなく、第一次世界大戦のさなかだ。作者であるシャガールの故郷ロシアは前年の1914年に総動員令が出されて、一般の人々にも戦争が強く意識づけられていたことが予想できる。部屋の中だけでなく窓から見える外の景色も暗く、死の空気を感ずるのは、この絵が描かれた当時の周囲の環境が戦争中のどんよとした空気に包まれていたからかもしれない。

主役となっているのは中心に描かれた2人の人物である。女性らしい人物に、宙に浮いた男性らしい人物がキスをしている。女性の表情は驚いているように見える。この2人は恋人同士だろうか。そういった視点から見ると、どうも奇っ怪な絵である。2人の着ている服は、並べてみると少し違和感を感じる。女性は黒服で、正装のように見えるが、

男性が着ている服は私服のように見える。服以外にも違和感を感じる部分は多い。

男性はなぜか宙に浮いているし、女性の方も身体の向きがかなり斜めに描かれている。

男性の身体は横向きのような感じが手かたこにあるのかおかしな。また女性の肌の色に比べ、男性の肌は灰色が強くと不健康そうだ。まるで死者のようである。

そうして見ると、女性の着ている服は喪服のようにも見えてくる。

シャガールはこの絵が描かれた1915年に母を亡くし、またバラという女性と結婚している。シャガールにとって印象的な年だったろう。描かれている2人のキスには、彼の母親とバラへの愛情が込められているのかもしれない。

この絵には、男女がいる部屋に2つと、外の風景に2つで、合計4つの窓が描かれている。窓は本来開放的な印象を受けるものであるが、閉じられた窓からは逆に窮屈な印象を受ける。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4229

斉藤 あおい

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

パウルナッソス 山へ

コバルトブルーとオレンジのイメージが強い。上の方の青色が空のように見えるので、屋外の風景画であると思われる。しかし全体が一色で塗りつぶされておるといよりは点々と色が置かれており、朝なのか昼なのか夜なのかあからない。早朝であるとか、夕方であるとか、そういう空の色があまりない時間帯の絵なのかもしれない。右上にある円が太陽だとしたら、夕焼けのようなオレンジ色をしているので夕方の絵ではないかと思う。

この絵は一見ひとつの範囲とその他の範囲との境界線が少なく、必然的にそれぞれの範囲が広く、非常にシンプルに描かれた方に見える。しかし、拡大すると細かく縦長の長方形が並んでひとつの絵になっている。作者であるパウル・ナッソスは実は地道な作業と手間をかけることでこの絵を完成させたのではないかと思う。

タイトルにあるパウルナッソス山というのは、おそらく絵の半分が上側の三角形のことだろう。しかし、私にはこれは山ではなく家のように見える。下方の、中心からやや左側にあるアルファベットのUを上下逆転させたような形が、私には扉のように見えたからである。山の部分が三角形の屋根に見えるのである。三角形の部分が山なのだとしたら、なぜ主役である山を上半分に追いやるように配置したのだろうか。そして、下半分に描かれているのは何なのだろうか。パウルナッソス山というのは、中央ギリシヤに現存する山である。「parna-」はヒッタイト語で「家」という意味がある。パウル・ナッソスがそのことを意識していたかはあからないが、もしかしたら、家のシルエットが見えるようにこの絵を描いたのかもしれない。

この絵は、引かれている線に直線が多いことから、おそらく実際の風景を形的には単純化して描かれたものだと思う。要素として、主役となる山以外には、右上に横に細長い、図形と円がある。細長い、図形は空の部分にあるのでおそらく雲だろう。赤い、ピンクのような色をしているのは、やはりこの絵が夕方の時間帯を描いたものだろうということだろう。円の方はどうだろう。その大きさから、おそらく満月の太陽であると思われるが、色から考えるとやはり太陽なのだろう。満月がこのような色に見えることもあるので、断言はできないように思う。

■ 美術感想文

提出日: 7月 日 14

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4230

押切 彩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

再会

この作品は、シャガールの作品だ"と思う。前にどこかで見たことがある。しかし、作品名はわからない。

私はシャガールという画家は赤や黄色など"明るい色を使った作品を作るイメージがある。そうであるからなのか、この作品はとて"暗い印象を受けた。また、シャガールといえ"ば、描かれたモチーフが浮いているというのが印象的だ"。

この作品では男が浮いているように描かれている。この男を見たとき、思ったことは、顔色が悪いということだった。そして、この男だけが空間に浮いているのでこの男は死んでいて、幽霊"なのではないだろうか。次に描かれている女を見た。女は黒い服を着ている。これは喪服ではないのか。そして女の手には花束がある。なので、暗い印象をもちそう"なシチュエーションだが、女の表情が暗いとは感じなかった。もしかすると、この男は女の恋人や家族といった大切な人で、幽霊"になって出てきたとしたら、女はこの男と会うことができ"て嬉しいのかもかもしれない。そう考えるとこの女の表情は驚いて"いるようにも見えてきた。

女の服の黒色の発色がいい。目がすぐにそ"ちにひかれる。全体を見て思ったことは、立体的な表現を"されているところ、平面的な表現がされているところもある。それらが混ざ"りあって不思議な空間が成り立っている。いろいろと想像を"広げることができて、おもしろい作品だ"と思う。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4230 氏名 押切 彩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
 静かな夜 D

私はこの作品が誰の作品か知らない。今回、初めて見たときに思ったことは、描くのが大変そうだったということだった。モザイク画のようなドット画のような、とても労力の使いそうな描写方法だ。この描写方法を上手く使いこなしているように思える。

この絵には、月と家が登場している。私には夜、月が空に浮んでいて、闇に家が溶けこんでいるように見える。しんと静けさを感じることができる。トーンの違いによって光によって照らされている場所、夜によって暗くなっているところがわかる。おたやかに夜が明けるとまで待っているようである。

この作品の制作をしていた時、作者はきっととてもおたやかな気持ちであったと思う。そうではないとこんなにも細かい描写はできない。

作者の気持ちが反映された作品だと思う。

■ 美術感想文

提出日： 月 日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4231 氏名 鈴木 琴葉

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
 タイトル ぶたり、

全体的に暗い色でまじめられていて、空気がすごく暗いと思いました。人が吸い込まれるように描いてあって、恋人と思われ二人がキスをしています。男性の身体はすごく曲がっていて、現実ではあり得ないような感じになっています。特に美しいというわけでもないというのが私の第一印象です。男性は目をつむいているが、女性は目を見開いたようにしていて、びっくりしているような顔なのかなとも思えます。真ん中にいる二人が×印で周りはすら、と描いてようにも思えるし、いまいち何を表しているのかわかりません。家の中で花をいけようとしている女の人の所に、いきなり男の人が近づいてきたのかなとも思ったり、どういう心境だったのか、すごく不思議な感じだとも思いました。作者は、何を描きたかったのか、この絵を描いたのか、ととても気になりました。

イスのように思われるもののイスのあしはすしラケットに描かれていますのかなとも思いました。床はすし右土がりになっているし、じゅうたんは左に吸い込まれているように左上がりになっています。

お花もすし周りは明るい色いすか、すごくすんたように見えるので花壇のでも、と華やかに色をつけているのにはびっくりしました。この色の感じには意味があるかなとも思うと、絵、とすごくなとも思いました。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4231

鈴木琴葉

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

風景

一つ一つ細かく、色が違、ていて、とても面白いなと思いました。
何を表わしているかとかは、全くと言、ていいほどわからないが、私が思うに
右上のオレンジで丸いものは月(満月)を表わしているのかなと思いました。
周りは青い色の少し暗い色が多いので夜を表しているのではないの
かと思いました。月による光なのか、建物の光なのか、縦長で長方形
のようにな、ていて、黄色や白色など明るい色を使、ているので、光
を表わしているのではないかと思いました。

同じ色というのかわないの？、仕上げるとにはとても時間がかかったの
ではないかなと思いました。また、このように1つ1つ違う色にしているの
は、作者の何らかの思いがあるのかなと思いました。

思い細い線では、フリと描かれているものは何かと、考えた時
に、上の三角のようにな、ている線は家の屋根に見え、
下の方に描かれているのはドアなのかなと思いました。そして、
線が描かれているわけではないですが色の感じがいきなり変わ、て
いる所が所々あります。極端に違うのは右上の部分で青から赤に
変わ、ているし、真ん中は線を引いたように青と白黄のような色に変わ、て
います。一体作者が何を描きた、てこのような作品にな、た、たのかわか
らないし、色が違うこと、線があることは、これは何を表わしているの
か全然分からず、少し難しいものだなあと思いました。

しかし私が考えたのは風景をあいまいにし表わしているのかな
と思いました。誰でもできそう？、これは誰にも思、い何かは、作品？
なと思いました。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B (C) D

 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4232

川原田 明有未

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

命日

一目見たときにまず目に入ることは 2人の人物だ。一番気になることは男の人が浮いているということ。女の人も足場が不安定な感じがする。そして、その男の人の顔色が青色く、首もありえないくらい曲がっている。もしかしたら幽霊なのだろうか。形もゆがんでいて、関節もあるようには見えないう。軽そうに見える。やはり、実体ではないような気がする。

男性が女性にキスしているが、女性はそのとたん体が浮きはじめたかのように感じた。その女性は花束を持っているので、もしかしたらこの男性へのお供えだったのかもしれない。そうすると、この日はこの男性の命日だったのかもしれないとも感じた。こう考えると、この2人はとても愛し合っているように見えてきた。

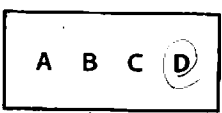
全体を見てみると、この2人だけでなく、家具の形もゆがんでいて、浮いているように思う。例えば壁にあるじゅうたんのようなものもむらむらと歪んでいる。左側にあるテーブルの上におかれているお皿やコップは、視点がぐちゃぐちゃになっていて、置かれている状況であるようには見えないう。家具の1つ1つが少し曲線気味になっている。丸いイスなんかは、丸の曲線を強調しているかのように描かれている。そのせいだろうか、2人の男女の浮遊感に違和感を感じず、周りと一体になっているように見える。窓などの四角いものも、線がうねうねしていて、フリーハンドで適当に描いたかのように、形が少しゆがんでいるのでこの絵の中で目立っていない。むしろ、その線がとても自然である。

色彩は、全体的に少し暗く、やはり「死」の雰囲気を感じられる。しかし、人物の服の色と壁の色のコントラストがはっきりとしていて、2人の男女の様子がとても見やすい。この2人に注目してほしいという作者の意図が感じられるように思う。この女性の視線の先には窓があり、しかも開いているので、このまじ空に飛んでいってしまうようにみえて、そしてそれが「死」を暗示

しているかのようにも思えた。幽霊の男性にキスされることによって、女性もそのまま幽霊になっていきそうだ。しかし女性には嫌がる様子はなく、目はぱっちりとしていて、積極性さえもうかがえる。こうしたことは女性にとっては本望なのかもしれないなと思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名
 4232 川原田 明有未

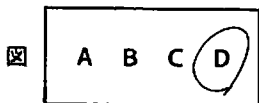
タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
 かたちのリズム

全体的な色彩はブルー。その中で「反対色のオレンジ色に近い色の月のようなものが」一際目立つ。線が囲まれている形は家に見え、周りの色も暗めのブルーなので月だと感じた。しかし、少し離れて見るとその月は丸で、家の輪郭はただの線になり、面的に描かれてある色彩が浮いてきて、線や面のある記号的な抽象画に見えておもしろい。色が、点描風なのか、編みものの上に描かれているみたいで、物質感がある。フワフワのふわふわが立体感があってどこぼけているように見える。白い線は糸のようにも見える。いろいろなところに目が行くので見ていてあきないなと思った。

さて、離れて見て感じたのは、画面の真ん中のところで横に線が引っぱってあって、そこを境に色彩が分かれているところ。上は暗めで下の方は明るめだ。全体として見たらそこまで色のそのような差は感じないが、真ん中の線のキワにかなりの色の違いがあるせいで、上下に分けられているように思えた。どうしてそのようにしたかというのは、単に家の屋根の部分と壁の部分の差を分かりやすくしたかったのだからだろうか。しかし、私には、作者は家を描きたくてこのように描いたように思えないむしろ、この単純化された線や形が優先されているように思う。線や面や形には、リズムが感じられる。色は違えど細長く尖った形が連続してあり、ブルーの中にある白っぽい色面はななめに連なっていてリズムが流れていると思う。このような記号で表せる心地よさを大事にしていたのではないかな。そう思うと、まほほどの、真ん中から上下に色が分かれているところは、真ん中から下の色をたどっていくと線があり、また違った形に見えるところ。そのように形を探していくと、色面が表れたり消えたり点滅しているようで、それがいろいろな所で起こるので目がとまらないうでずっと見続けられた。最初から最後まで私の視線は動かまらないうでずっと見続けられた。最初から最後まで私の視線は動かまらないうでずっと見続けられた。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4233	栗木 香織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

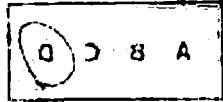
神のたつ山

パワフル、グレートに於て描かれた絵画である。パッと見たときに家のようなものを月が描かれているように思えた。この絵は画面全体がモザイクのように緻密な点が集めたものと、くっきりとした黒の線描に於て描かれている。画面は青を主体として、黄や、緑、赤など様々な色の重なり合いでできており、その色の美しさが、この絵の魅力の一つとなっている。その様々な色の中に、強い黒の線が画面を横切っているが、不思議と画面を分割したり、さすだけ浮いているような印象は無い。線に於て描き出された物は、どのようにも、建物の屋根のようになって見える。が、手前の曲線で描かれた部分と色が区別されているため、下の方に描かれているものと、上のものは違うものではないかと思える。そうすると、画面下方に描かれているものは大きな門のある建物、上方にあるものは大きな山に見えてくる。また、そのように見えてくることで、画面に立体感が全くなくても、手前と奥を感ずることができるようになる。画面右上に描かれる、黄色の田は、太陽にも、月にも見えてくる。画面全体の色合いを見ていると、月の昇る夜か、太陽が昇りかけている朝方かのどちらかに見えてくる。ひときり目立つこの黄色の田は、どこか神秘的な雰囲気をももたらしている。建物のようなものがありながら、その気配を全く感じさせず、静かな空気がただよっている。それが、見るものに神秘的な、吸い込まれるような感覚にさせる。青を主体とした色の重なり合いの中で、黄色が目立つ部分や、緑が多く目につくところなど、茶色妙なバランスに於て、それぞれに描かれたものがどうもものかを具体的に物体として見えるようにしている。またその茶色妙なバランスが、見るものをひきつける強い魅力になっている。

姓名: 田中 誠

科目: 美術

第 〇 〇 〇 号



課題: 古典美術の鑑賞

学号: 〇〇〇〇〇〇

古典美術の鑑賞は、その時代の背景や思想を理解する上で重要な役割を果たす。特に、ルネサンス美術は、人文主義の興隆と共に、人間性を重視するようになった。この時期の美術家は、自然の観察に基づき、解剖学や幾何学の知識を駆使して、よりリアルな表現を目指した。

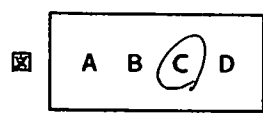
例えば、ミケランジェロの『ダヴィッドの裸体』は、彫刻的なフォルムと力強い筋肉の表現が特徴的である。一方、レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナリザ』は、微妙な表情と遠景の謎めいた風景が、鑑賞者に無限の想像力を喚起する。

また、この時代には、数学的比率や黄金分割が美術の構成に広く用いられた。これは、自然の調和や美の法則を追求する人文主義者の思想の反映である。

以上のように、古典美術の鑑賞には、単に視覚的な美しさだけでなく、その背後にある歴史や思想を読み解くことが求められる。

■ 美術感想文

提出日: 17月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4233 氏名 栗木 香織

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。」とあり、そこに「志却」と書かれている。

ニヤガールによる描かれた絵画である部屋の中に女性と男性が描かれている。女性には手に花束を持ち、黒いドレスを着ている。宙を浮き、首の大きくねじ曲がった男性にロブけをされて、ハッとしたおろおろ不思議な表情をしている。画面の色は全体的に暗く、女性の持つ花束を以て豪華さを感じさせる。部屋の中には描かれておらず、窓、時計、やじやたんのようなものがある机の上には、ガラスの花瓶のようなもの、グラス、料理ののたま、クロスなどがあふれ、机や窓には強いパースが通って、二人の空間を取りかたつた空間感を生み出している。また、男性の足元は壁と床の境目が、まじりとしてからず、男性をこの空間の中心に表現しているように感じられる。男性の不自然な姿勢や、顔色の青白さなどから、死体のように見える。対して女性は生きていて、男性の志却の影に思われる。二つのことから、私は女性が記念日か何か、特別な日を一人きりで祝うために、机に花を生けおろしを向かっているところを、下志入である男性が一人きりでさびしげな女性を慰めるように、自身を思いまさせる影に、また、自分はなぜにこんなことを証明する影にロブけをされているという状況ではあるかと思えた。

さらに、女性のハッとしたおろおろ表情は、たはずの志入にロブけをされて驚いたものであろうかというところがある。しかし、女性の目線はどこか、さびしげな空間を見つめるようである。ロブけをされて男性の存在を感じているが、は、まじりとしてはいないのではあるかと思う。さらに考えると、この絵に描かれている様子はおろおろさびしげなものに思われる。そういって、この想像から、改めてこの絵画を見てみると、女性の服の質感とした絶妙な黒も、男性の服の何とも言えない緑、部屋全体の暗い色合いが、さびしげな雰囲気をつくる要素として絶対的なものに見えてくる。この絵が描く部屋は二人だけの空間、誰も立ち入れず、邪魔さすような空間にも見えてくる。特別な日にロブけをする志入は、さびしげな日本の七夕の風景の影に、さびしげなものと見えてきた。

■ 美術感想文

提出日： 7 月 14 日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4234	松浦歌織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

誕生日

男と女がキスをしている絵だ。しかし、普通にキスの絵とは思えない。男があまり得意なような体制をしているせいだ。宙に舞い上がり、顔をあまり得意な重さで彼女に向けている。なんとなく、アクロバティックだ。しかし、そんな激しい動きを見せながらも、目はそこを離れず、彼女がどこか隠れかさを感ぜさせる。女の方を見てみよ。女は手に花束を持っている。タイトルから考えると、恐らくこれは誕生日プレゼントだろう。目は驚いたように見開いている。これはジャカールが愛妻ベラと結婚した年に描いたものだ。ジャカールがベラと会ったばかりの頃、二人の間には貧富の差が下すかたらしい。ジャカールは貧しい労働者の息子で、裕福な家に生まれたベラと親しくしていることをベラの両親はあまり良く思っていないかたらしい。ジャカールは自分のような無名の画家が、そう簡単にこの令嬢と一緒にいれることには思っていないかたらしい。努力してなんとかベラとの結婚を認めらるようになったジャカールだ。この絵の中の男はジャカール自身だ。ジャカールは喜びを全身で表現しようとするような素直な描き方をする。この絵の男も、ふわりと宙に浮かび上がり、喜びを表現している。そしてジャカールはベラにキスをしている。ベラはその勢いのおかげで驚いた目を見開いているのだ。これは誕生日を祝われている幸せなジャカールの絵だ。しかし、それ以上に愛する女性を努力してなんとか結ばれることになったジャカールの喜びを描いている。この頃は第一次世界大戦の頃だった。しかしジャカールは誕生日を妻が花束を手に訪ねるといふそんな小さなことでも、舞い上がるほど幸せを噛みしめているのだ。この絵はそういう絵なのだ。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4236

佐藤 水紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

夢でもいい

全体的に、彩度も低めでしつとりとした絵だ。場所は、中心にいる花を持った女性の部屋だろうか。描かれているのはこの女性と、彼女とキスをしている男性である。しかしこの男、体が宙に浮いている。キスをしているから恋人同士なのか、などと思っていながら浮いていた男。幽霊なのか？ 幽霊だとも思ふのは、この女性の驚いたような顔にも糸内得がいく。そう思うと、彼女が持っている花はこの彼に供えるための花のようにも見えてくる。彼女の着ている黒い服にも、何か意味があるような気がして来る。この2人はきっと、恋人同士「だつた」のだらう。

2人が居るこの昔部屋は、タペストリーが食卓にかけられて、机の上に無造作に皿や貝布が置かれていたりして、とても生活感があるように思う。きっと、彼女にとってはなんてことない日常だったのだらう。もしこの日が2人の特別な日だつたなら、リフレッシュした気持ちかもしれない。しかし、どららにしても彼女はもう居ない彼のために花を食卓にしようとしたのだらう。彼女が突然現れることとは到底予想外ではなかったのだらう。それがこの表情につながるのではないかと思つた。

この絵の不思議なところは、この男の体にあると思う。人の体はこんな風には曲がらない。絵の全体的なタッチもその不思議さの一つではあると思うが、(机の上の物が妙に平面的な点など) この女性も体はかなり傾いてはいるものの変な方向に曲がっているりはしていない。それと比べてこの男の胸から首のあたりの曲がり方は、宙に浮いているどうこう以上に人間ではない感じがする。

私はこの絵の作者もタイトルはとも知らないため、詳しく説明することはできないのだが、寂しさや切なさを感じつつも、胸の奥がチーンとするような感覚がある。この作者も、この絵と同じように、会いたいけれどもう会えない人がいるのだらうか。幽霊だらうか。夢だらうか。何でもいいからもう一度会いたい、と思う人がいるのだらうか。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4224

吉藤 郁子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

命日

この絵を見てまず目につくのは、中心にいる二人の人物だ。女性のほうは、かろうじて地に足がついて見えるが、男性のほうは完全に体が宙に浮いてしまっていて、さらに体がおかしな方向に曲がって、女性にキスをしている。背景はいたって普通の部屋の中だし、窓の外の風景も普通の街並みだ。なので、余計にこの空間にいる二人の人物が目につく。

とくに気になるのはこの男性だが、一体この男性は何者だろうか？ 女性の恋人だろうか？ こんな軟体動物のような動きをする恋人は嫌である。そもそもこの男性は人間なのだろうか？ 宙に浮いているし、足はあるけどよく見れば手は無い。体の動きもおかしい。もしかしたら、幽霊とか、人間ではない何かかもしれない。女性は花束を窓辺に持っていて、そこをキスされたら驚いた顔をしている。まあ、ありえない方向に体が曲がっている人にキスされたら誰だ、と驚くだろうか、もしそれが、この場にはいないはずの人にキスされたら驚いているのだとしたら？ 女性は黒い服を着ているし、手には花束をもっている。もしかしたら、悲しい出来事があった後、いなくなった大切な人が会いに来た、という絵なのかもしれない。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4236	佐藤 水紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

パルナッソス山へ / パウレ・クレ

優しい絵だよねと思う。絵本のような感じでもクレの絵は見ていてなんだか
 しょつとあるから好きだ。この絵のタイトルを知る前は、これは山ではなく家だと思
 っていた。しかし思えば、太陽との位置関係的にも、山のほうがしっくりくる。

今まで、家とその屋根との境界線だと思っていた。中心の色が分かれるライン
 そう見ていたからこそ、全体的に子ども向けの絵本のようなイメージを持って
 いたのかもしれない。だが山として見たとたん、上部の三角とその下の各部分の面
 に興行きかでき、風景画になるのである。

タイトルも何も矢口から絵を見て、とある感想を持った上での絵の情報を失くすと
 一気に違う作品に見えることがある。これがきっと、「見方を変える」ということなのだろう。
 それは同時にまた私の視野が狭いということだ。しかし私は何か美術作品を
 見る際に、そのギャップを感じるのが大好きなのだ。そのギャップは大きくても
 小さくても嬉しいのだが、この「パルナッソス山へ」はギャップが少し大きかった。

平面的な見方から空間的な見方へ変えるだけで、こうも絵が変わるのか!
 絵自体は少しも重かいてないのに。そのギャップによりもう一度感重かをおぼえまし
 っしおぼえな感じがある。こういう書き方をすると、貧乏くさい気もあるのだが。

この絵は平面的な表現が合わさって空間感を出しているように思う。よく
 見るとまるでタイトルを貼り合わせたようなかんじがある。四角い色の集合体が
 さらに組み合わせあってこの作品を形づくっている。それによって何だかリズム感に
 感じ、全体的な色調は落ちついているのに重くならない。暗くもならない
 明るい、ちょうどいいバランスを保っている。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4237

池田梨乃

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

わたしの家

まず、この作品を見たときに、他の3つの作品とはかなり描き方が違っているという風に思いました。

作品が全体的に、マス目みたいになっていて、紙ではなく他の何かに描いたのかなと思いました。色付けの素材(絵の具・ペンキなど)も、何を使っているのだろうと思いました。さらに、色のつけ方についてですが、不自然に長方形になっている部分が多くあり、先にタイルなどに色をつけて、それを貼りあわせて1つの作品にしているのかなとも思いました。しかし、右上のオレンジの丸が、とてもキレイな丸みを帯びていたり、作品全体が長方形のうらにならるように色付けされていることから、すごくこのオレンジの丸が浮き出て見えました。

作品全体の色あいから、右上の丸が満月にみえて、「夜」をイメージして作品なのかなと思いました。

また作品の上に三角にならるようにラインがひかれています。作品下にドアのようなラインがひかれていることから、これは家をイメージしているのかなと思いました。

色のぬり方がすごく雑雑にみえますが、これはこれでみりよくの1つだと思っています。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4237

池田 梨乃

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

忙しい女性

作品全体からヨーロッパな感じが伝わってきました。壁にかけられている布の絵柄まで、小さくて、すくすく手の込められた作品だ、という印象を受ける一方で、2人の人物やテーブルの上に置かれた食料(?)などの様子も目立ちました。壁にキレイな絵柄の布を掛けていたり、花束をもっていたり、素敵なお洋服を着ていることや、よくよかたな体つきから、この女性は裕福なのではないかと思えます。

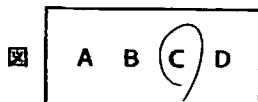
しかし、あざやかな色があまり使われていないことや、壁も黒ずんでいたりと、部屋全体が暗いことから、この絵が描かれた時代の背景には、何か闇があったのではないかと、とも思いました。なぜなら、美術作品は、その時代の背景や社会情勢などをよく反映していると考えられるからです。

作品全体からは、まったく不気味なイメージがないのにも関わらず、男性だけ、首がおかしな方に向いていたりして、そういう部分が無意識で、何を主張しているのだろ、と思いました。

女性が、前のめりに歩いていくことから、何でか忙しいのか、という印象を受けました。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4238

塚本葉摘

タイトル

作品の題名が構った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

混乱

この絵を見て、まず思ったのは、なんでキスをしているのたろう？ということでした。

変な体勢の人が男性かな？でも女性にも見えます。変な体制をしているので人間じゃないのかもしれない。肌のトーンがずいぶん変です。というよりは正しい形を保っているものかともありません。

これは夢の中や精神世界、心の中などと言った方がしっくりきます。カバンにかけられている布の柄が妙にオジャシです。部屋のセッティングが女性的なので中央の女性の部屋だとも思います。

女性は花を持って、まじの方へ向かっていたのだとも思います。

それをキスをして止めているのだとも思います。本当はキスではなく言葉で引き止めたことを描いているのかもしれない。

お皿に乗っている赤いツアツアが気になります。血みたいな色をしていて、もし食べものとしたら、あんまりおいしくなさそうです。

女性はキスをされて頭がおかしくなったのかもしれない。

なので世界が歪んで、自分の立っている位置もあやふやになっています。

ずいぶん目を見開いて、相手を見ていてこわいです。何かうらみでもあるのでしょうか。恋愛に関する絵に見えます。自分自身に恋愛経験がないので、そう思いながら見ると何も考えられなくなってきました。どうしてキスをしているのは、あまり幸せそうではない感じなのたろう？

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4238

塚本葉摘

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

夜

D

見た時、まわりの色がきれいだと思いました。夜を彷彿とさせる色合いだと思いました。描かれているものは、おそらく家と家のドア、入口と月です。入口の右が変な形になっているところがすごく気になります。よく見ると、似たような形が屋根の形をつくるように横にあります。月の上部にもあります。ドア?のまわりが黄色いので、温かそうに思えます。

変な形のところは、光のかたちを描いているのではないかと私は思います。モザイク状のあいまいな世界で、光と(月を含む)建物だけがはっきりと形つくられています。私は自分の家がここだったら良いなあと直感的に思いました。青と黄色だけの世界に見えますが、よく見ると赤も緑もあり、キレイだから好きです。攻撃的ではなく、静かで、しかし心地よい感じはしないので私は好きです。

前回も家が出てくる絵の鑑賞をしました。今回の家(?)は、ふたつ感じがなく、身近な感じがします。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4239 氏名 後藤 はつ希

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

タイトル

月夜 D

背景の青が暗めた色をしている。
 一目見た時に、これは夜を表しているのではと
 考えて、そこから作品を見ていた。
 絵全体が何か小さい長方形のようでは7で、
 点描のように描かれているのが見える。
 うっすらと、画面のあちこちに描かれている、
 四角を形どっている色面は、月明りが
 とてつもない夜で周りを照らしているように見える。
 画面上にははつきりと描かれている黒い線は
 家の形やトアを形どっているように見え、
 その上に浮かぶきれいな月が、
 この夜は満月がきれいだった、たんだと思っただ。
 なぜ月だけをはつきり描いて他をぼかして
 描いたのかと考えた時、月は人々の視線から描くと
 どうしても小さくてもしょうから、月をメインに
 した時、他をぼかし、あまりはつきり
 描かなくていいかと思っただ。
 ABCDの中では一番好きな絵だった。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4239 氏名 後藤 はつキ

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
 夢 D

この絵は、壁がまっすぐうながっていかつたり、家具や布がぐねぐねとよれている、仮想空間、夢の中を表現しているように見える。

さらに、外にあるはずの屋根の部分が中に向いていたり、不思議な空間が広がっている。

絵の中心であるキスをする男性と女性に注目すると、女の人が男にプレゼントされたであろう花束を生けようとした所、後ろからいきなり男にキスをされ、驚いているように目を見開いている。

外の空間と家の中の空間が混ざってしまっている。地面に足がついていない様子も、ふゆふゆしているように空気を醸し出している。

男性と女性が2人で(身体で)描き出しているし字型にも見える曲線は、何を表わしているのだろうか。

最初は部屋のテーブルの上にある白いお皿がケーキのように見えて、女の人の誕生日に、男がケーキと花束を持って来たのかと見えた。

去り際に男が別れのキスをしたんだと思う。

しかし女性があまりにも驚いていたので、二人は恋人同士では互いなのか?と疑がっていた。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4240 氏名 津田 光太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。
誕生日

キョド人間的な自由な視点に思わず目をひかれる作品だと
思った。 所々、当時までお物の見方を変えようとする絵描き方
が見受けられる。 机の角度はわざわざ机から乗っている物か
見やすいようにしたかのように天板が++Xだし、椅子も
動きがあったかのように74どられている。 特に複雑で
興味を持つのは中央の男女だ。 両者共、不可思議な
ポーズを取っている。 だからこそ、確実に目が行くのだ。
そしてこの作品は作者の自由な視点によって描かれた
物である。 この自由な視線の元を正せば、より単純な
絵と構図になるのかもしれない。 花瓶に生けるための花束も
持った女性に男がキスをしているこのロマンチックな内容に
作者は何を足し何を注いでこの面妖な画面を作り
出したのだらう。 男は女性を抱きしめてはいない。
女性は歩き出すような動きを持っている。 驚きのような表情もある。
客観的に見て、「それ違^様い様の軽いキス」といった状況だと
思う。 だが、そう言い切れな^いのは、あきらかに男の首がぬじれて
いることや男が中に浮いていることに由来する。 ここからは
僕の推察であるが、作者が「花を持つ女性にそれ違^様いに
キスをした男」とい状況に加えを視点と要素は、「愛と喜び
だ」と感じている。 その日常的な軽いキスにすら、身がよじれ、
足が地につかない喜びを感じている作者の心情が表れている
のだと思えてやまない。 よく見なくても女性も足が浮いている
ように見える。 この絵はきっと、2人の愛の日常の1シーンに
過ぎない。「誕生日」という特別な日でも、いつもと変わりぬ
最上の愛がある、という作者の1コマみたいな絵だと言えるか。

■ 美術感想文

提出日: 7 月 / 0 日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4241 氏名 千葉 明美

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
 月と家 D

二の糸をほじめてみたとき、これはどのようして描いたのか、本当に紙に描いたのか不思議に思った。小さな点。にとるどにとるどかちたう。月と家らしいものが描かれている。青をベースとして描かれていてオレは三の目が目立っている。まわいな丸と直線と描かれている。この糸と比べてみても、どれが主人公的存在なのかは、さっぱり分からな。二の糸は1つ1つのヌにこまかく描いていったのか、わからな。布のようなものに描いたのかなと思ったりした。三フォルな絵だなと思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4241	千葉 明美

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

男女 D

絵全体的にはなんでもかんでもイメージがある。明るい色が使われてなく暗く感じる。中心に男女が描かれてる。しかし男性の体の向き、顔の向きは右をおかした方向を向いている。そして「なんでもかんでもある」としてある。しかし、主人公的な存在はこの男女なのだろうと思えた。私が長にならしているのは、周りの風景の描き方がさうだが、中心の男女である。女性も描かれている。女性は花を手にしている。女性はさうして花を手にしているが、目をみはらしている。男性は目をみはらしているのか。とて不思議な印象。全体的なイメージは暗く、何を表現しているのかまたよく分からない。この二人はなぜこの世にたどり着いたのか。その理由が分からない。そして、その理由が分からない。男性のくせは、いまだ分からない。私には何を描いているのか結局分からなかった。

図

A B (C) D

1点満出
 2点満出

学生番号

424

氏名

橋本 拓也

タイトル

ジャカル 「誕生」

華やかな部屋。中央で宙に浮かびながらキスする男女。赤いじゅうたんや家具と男女の髪や服の黒、男の緑の服の強い3色が画面の中で強く主張していて、白い壁がさらに引きたっています。テーブルや丸イスがパースをねじめるようにこちらを上の方に向けていて、さらに壁の面の境目もあいまいな不思議な空間です。人の形も少し簡略化してあって、レリーフのような描かれ方です。男の顔はキスに夢中で女の顔は思わぬタイミングでキスをされておどろいているように目を見開いています。女性の髪は花。私はこの絵が単純に幸せな男女の仲を描いていると思います。花びらに花をいれようとしていた女性にいきなりキスをした男の人の一瞬の、幸せな日常だと思います。2人の幸せな様子をより強調するため現実を超えて画面の再構成をしてパースをくずして非現実のような世界を描いているんだと思いました。男の人が体をねじってキスしているのも、浮かんでいるのも幸せに身をまかせようとしているのかなと思いました。壁にかけてある布やイス？にかけてある赤い布も華やかな柄で2人の生活をそのまま表わしていると思います。また、人物や家具の際を「かき」ときめて描いているところが緑や白、赤などの強い彩度の高い色で、一層際が強くなっているのも非現実的な空間を構成していると思います。

図

A B C (D)

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4242

橋本 拓也

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

夜景と山、または夜の家

最初見たとき、じつた人みたいと思った。青色のトーンを中心に紫や黄色、赤が四角形や大きな三角形の単純な形で画面が構成されていて、その色の配置が個人的には美しいなと思いました。画面の中心に少し斜めに引かれた水平線のような肌色の三角形、画面の上半分を占める黒の線でふちとられた三角形と、オレンジ色の丸。そして画面の下のとびらのような形。この形から一番最初はこの絵は家と夜の空を描いているのかと思いました。(画面上の大きな三角形が屋根、下のとびら、オレンジ色の丸が月) しかし、大きな画面上部の三角形が大きな山にも見えてきて、画面の下半分は砂模のよう砂っぽい地面です。そうだとするととびらのように見える部分や画面の右下の地面の部分が青いのはどうしてかわからないなと思いました。右下の青い部分と上を見たいな部分が近景で砂のような部分が中景、山のような部分が遠景というように画面的なかなと思いました。しかし近景にしては少し弱い気がするし、そう見えにくいと思います。自分の中でこの絵が何かはっさりとばかりはわからないうえに夜の家を描いたものが、大きな山と地面と近景の2つの解釈が生まれました。抽象画のおもしろいところはこういう解釈がいくらでもできることかなと改めて思いました。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4243

森 遥奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「山」

これは夜であろうか。ぼやけた視界に引かれた黒く、力強い線。家を描いたのだらうか。一つ一つがタイル状になっている。分かるようではなみようがない。そのように表し方がされている。美しい。そして絵らしくない。と思ったのが私の印象だ。美しさだけが、自然といった色、形。そのものが手紙への記号として機械のような、何かのルールで描いているという規則性がこの作者の中にあるのではないだらうか。

どうしてこの四角のようなタイルのようなものの一つ一つが集まって、美しさを私に感じさせるか。到底不思議である。自然の情景、夕日の上に作者は思いをよせ、情熱を感じ、どのような表現をして私たちに伝えるか、魅せようか。自分なりの表現という道に進んだのだらう。

その中にある、太くて力強い黒線は、丈夫なように見えて実はすごく繊細のように感じる。自然体の形を出すのに、要らないものを消し、本当に必要な線だけを残し、一本一本大切に、しかし確実に、ほそきりと、そこしかない。という配置を組み込んでいる。作者の、絵画と真剣に向き合う姿、緊迫した息づかいが私の目に浮かんでくる。またあらキャンバスと見つめ合っていたのだらうか。あたたかさが伝わってきた。

そして、作者は私たちに何を伝えたか、たのであろうか。この一つ一つ、細かく、大切に描かれたタイル。私たちを安らげさせるような、この色調、イエロー、オレンジ、そして落ちついたブルー。この絵の中に作者は、情景だとか、淡い光や、太陽で写し出された色、形、それによって作り出された影、その自然の全てを美しく思い、その気持ちを全力で表現してみたのだらう。私なら大満足だ。

そして読み解いて気が付いたのが、この絵が自然を表現しているのなら、線は家ではなく、山を表現していたのではないか? 家の一部と見ていたドアと切りはなし、別々にとらえると、扉から次々に見える、この豊かな色と調和のやわしい香り、何となくステキな大地が広がっているのではないだらうか。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4243

森 遥奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

「死神」

目に入るのは2人の人間。浮いているのは何であらうか、本当に人なのだろうか。形を簡略したような線で描いている。左側のパースの直線に違和感を感じた。不思議な空間の中にいるようだ。歪んでいる。ひん曲がっている。この部屋で何が起きているのだろうか。いやな感じ、不吉な感じ、死を連想してしまう。体の向きが変だ。ところどころぼやけている。うっすらとした感じ。

キーワードを解釈してみる。まず人物2人を見て思ったのは「黒い」「不吉」「死」である。全体的にいい意味や明るい絵とは考えられないうら。そして黒い服と言えば共通しているのが「喪服」というイメージで、死という感じはそこから来るのだろうか。花を持った女は生気がなく冷たい。目が死んでいる。この女は今とても死に近い状態の中にいるのだと思う。花束は何のため、誰のためのものなのか。浮いている女は、いやなオーラ、息を殺しているように感じる。死神か？しかしよく見るとこの2人顔が似ている気がする。体が完全にひん曲がっていることから、この女は死そのものか、すでに死んでいる人なのだろうか。その女は喪服の女にキスをしている。というより、命を吸い取るために口付けをしているように見えた。生命という、死神(女)の服の色が緑なのだが、緑は平和というイメージもあるが、「生命力」というイメージがある。花束の意味はどこから死と生の対比をしている役割を果たしているかと予想できる。花は生きているが、この瞬間草が落ち始めたのだ。その吸い取った生命力が、口の近くの壁に緑として表れている。そして死神へと緑が移っているのだろうか。続けて背景を見てもみるのだが、歪んでいる。壁の端が分からない。やはりおかしい。人を不安にさせるように組まれている。病気や、死ぬ瞬間になったときは視界がグらついたり、歪んで見えたり、かすんで見えたりする。まさにそれが表現されている。皿の上やコップの中にはほかにもない。ただ無機質な存在している物体だ。死んでいる。

そのような解釈の上、意味をつけてまとめると、この女は何らかの病気や死に至るような状態になり、死神に命を吸いとられてしまう。その生と死の境界の息をのむような瞬間を切りとった絵画と受けとった。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4244

太田 早紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

「悲しい恋人」

不思議な絵だと思った。まず、目がいたのは男の人で、首がありえない方向に向っているのが少し怖いなと思った。更に空中に浮いていたり、腕が無かったりと幽霊めいたのだなと思った。顔が青白いから、よけいに死んでいるように見えるのだらうか。2人はキスをしているから恋人同士なのだらうか。しかし、女性の方はとても驚いた顔をしていて、持っていた花を落としそうになっている。不意打ちで驚いているだけだらうか。もしかしたら、男性の片思い、もしくはまだ付き合っていないのかな、とも思った。もし、恋人同士だったとしたら、なぜこんなにも暗い雰囲気なのか疑問に思った。好きな人とのキスなら、嬉しいことだと私は思う。でも、この2人からは、淋しいような悲しいような印象を受けます。なのに、辛いことでもあったのだらうか。

また、この絵は背景も不思議だな、と思った。まず、女性の目の前にあるテーブルの脚が1本しかない。男性の足元の壁と床の境目も曖昧であり、イスとテーブルのあたりは、でこぼこになっている。更に、物の形がきちんとは描かれていません。これには、どんな意味があるのだらうか。私は、この絵を見ると不気味な印象を受けます。それは、全体的に暗い色を使っているというのもありと思いますが、この部屋のちぐはぐな感じが、よけいにその印象を強くしているように感じました。

私は、この2人は、好きだけれど一緒にいれないのかなと思う。このちぐはぐな部屋や、暗い色づかいには、2人の心境を表しているのかなと思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C ④

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4244

太田 早紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

「家」

この絵は、家を描いているのだろうか。屋根や扉と思われるものがある。とても簡略化されて描かれている。なのに、家だと分かるのはすごいと思う。屋根と扉の2本しか線がない。なのに存在感がある。

背景にあるオレンジの円は太陽だろうか。そうすると、この絵は、昼で、晴れている日の絵だろうか。太陽の上にある茶色の部分は雲だと思う。

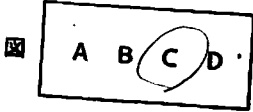
この絵はモザイク画みたいだと思う。1つ1つの四角の中でも色がいくつか使われている。もしかしたら、これは、大きな絵なのだろうか。だとしたら、とても迫力があったらうと思った。

深い青色がとてもきれいだと思った。家にいるととても安心感を感じることが多いが、この絵にも、安定があり、共通するものがあると思った。

四角がきれいに並んでいて、さらに大きな四角形が見える。部分的には三角形もある。そして、太陽は丸いので、いろいろな図形が入っている。家を建てるためには、計算などの数学や物理を学ばないといけない。だから、図形や、糸だけで描かれているところが、家っぽいなと思った。作者は建築をしたことがあるのかなと思った。

最後に一つ、気になったことがある。扉の横にある斜め線は、ななめだろうか。自分の家や、まわりの家を出しても、思い当たる物がない。いったい何を描こうとしているのが気になった。

門にも見えるし、木にも見える。でも、「これだ」と断言できるものがない。少し、謎のある絵だと思った。



1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4223

嶋崎陽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

灰

女性: この2人を浮いてい子のた"ら"うか。特に男性が。

この絵全体が宇宙空間で重力を感じず、ふわわりとただあてり子感じがする。

男性にオスといふ女性はおどろいたおらに見えひらいてい子。たんだか、おどろいて今にも手に持、てい子

花束を落してしまえうた。でも無重力だから、手から離れた花束を宙にふわわりふわわりと浮遊するのた"ら"うか。

男性の体の向きも氣にな子。ただあま向けて首をひねって女性にオスをしてい子のた"ら"うか。首がうしろをうた。

この身体勢がオスといふた。おどろいてしまふ。

おく見てお子と窓の外が描かれてい子。この2人の空間というのを強調してい子あうた。

男性の手が描かれてい子。手が無くてお抱きはお子か"ら"うか。とて氣にな子のた"ら"うか。窓の下の模様と床と壁の境目だ。

四角い窓の下の模様なだ"ら"うか。男性のかしりか"ら"うか。下の方は描かれてい子。足下の床と壁の境目も描かれてい子。

男性の足周りもボヤけてい子。この男性はもしかした。おどろいたのかおこれた。

た"ら"うか。女性はおどろいたおらにオスといふた。おど"ら"うか。い子のた"ら"うか。

窓の外は 窓の内と比べて"ハース"が"ら"うか。この二つも内と外を強調して、おらに思"ら"うか。

この氣を見た時、色が暗いせいか、少し悲しい氣持"ら"うか。男性が"おどろいた"と考"ら"うか。女性はおどろいたおらにオスといふた。

生活してい子のた"ら"うか。この女性の世界が少しでも明子"ら"うか。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名
 4245 石川 愛莉紗

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
 タイトル
 こににいる

この絵画の画像を見て、私がまづ一番に得た情報はこの絵に登場している男女は恋人同士だということでした。でも、この恋人たちの間には何だか違和感があるなと感じました。まづ、恋人同士でいるのにとっても画面が暗く沈んだ雰囲気を感じられるからです。恋人同士の口付けのシーンであるならばもう少し画面が明るかったりロマンチックであっても良いのではないのだらうかと思いますが、この画面は違うのです。それはなぜなのだらうかと思いました。そしてこの絵をよく観察してみても、もしかすると、この絵の男性はすでに亡くなってしまっているのかもしれないと思いました。理由は、まづ、男の体はあかしの向きになっているからです。体はバットの方に向いているのに顔は女の顔の目の前にある。普通、人間ならばこんな体勢は出来ません。そして、ふたつめに男の顔の色が女の顔の色よりも数段悪いことだ。やはり、男はもうすでに亡くなった方で女はこの部屋に居るはずのない男のぬくもりのようなものを感じているのだと思います。この絵の内容はこの上記のような内容かなと私は推測しましたが、だとすると、どういった感情がはたらいた絵なのかということも気になりました。彼女のもとに訪れる彼を描いているけれど、なぜあんなに「その時」を絵におさめようと思ったのか、というのが何も特別な感じがしない、と私は思ったのです。もっと深い理由がある物語が絵の中で構成されているとすると、男は亡くなったのではなく、今女が過ごしているこの瞬間に死んでいて最後の別れを以て彼女のもとに訪れたのではないかと思いました。推測はこのへんにして、私がこの絵を見て面白いと感じたのは、細部の描きこみです。バットの模様や窓の外の景色、花の種類までとても細かい仕事が出来ている、その仕事ぶり、この絵画の世界感をとっても現実にあつて恋人たちを日常から引き離すといふ悲しさがあふれてくることに色を持たせ、重さを感じさせられていると思うのです。この描きこみが恋人たちの過ごしてきた日常を刻んでいるものかと思えてきて、別れのその瞬間を描いたこの絵の後日をも描くならば、想像できない悲しみにくれた女がいるのだと思うと、とても悲しく感じます。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4245

石川 愛莉紗

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

月明かり

パッと見て、私の好みの色である青で画面がドーンと見えて、よく見るとじゆうたんのようになつてくるなと思った。モザイクのようというのかタイルのようだというのか分らないが、ともかく小さな粒がしまめられてこの絵は構成されている。この一粒一粒を描き、ハタ塗りをしてないことに何の意味があるのだろうか。とても美しいと感じることはできても、なぜそうしたのだろうかと考えても出てこない。なので、あまり腑に落ちないが、上にある円が月に私は見えるので、その月による反射された色がとても美しい極彩色であつたのでそれを表現するために一粒一粒描き「極彩色」の美しさを表現としていたのだと思うのだ。そしてこの絵の奥行きを感じるところは、もうひとつ。図形と線のみで構成されたシンプルでいってとても美しい面分割とリズムだと思う。ちょうど頂点から分れた形に分かれた直線が屋根のように見える。真ん中を二分している横の面は何であろうか。右に進むにつれて尖がとがらうという。その面から下は青の色みよりも茶系に明るい月似た色みになつてくる。というところはやはり凸になつていて月の光を多くうけているから明かりなのだろうか。でも、それならば屋根の方が月の光を多く受けるだろう。となると別の理由があるのか。でも私はただここが一番月の光を浴びている場所だと作者がとらえたところを考えられない。私はこの建築物が何かと問われるは、宮殿なのだと思う。なんでもかと言われてもとても美しい答えしか返すことができないのだが、画面の中の青がとても上品で茶系の色とも調和がとれているから何だか高級なかんじがしてただの家だつたりの建築物ではない歴史のある建物な気がする。そして、気になるその宮殿の入り口。構図的にも下にあるが気になる位置にあって、全体を感じた後に気づく位置取りだなと思う。ということはその入り口に何かを見せたいということだろう。それはきっと月明かりとは対照的な宮殿の入り口の吸い込まれるような深い暗さを表したのかもしれないかなと思うし、そんな景色が私の目の前に広がっているなら私も入り口に魅せられてくるのだと思う。月と月の光をいっぱい浴びた宮殿、闇のような入り口のコントラストがとても美しいと思い描けて、絵が頭になつてくる新しい絵画の形なのでほなほな感じて楽しかった。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4246

古田 俊太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

炎天下の家

この作品を見たとき、正直どこから考えれば良いのかわかりませんでした。

色の感じというか、全体的にタイル、ほい感じでおかれています。描かれていますなあ、全体的にいくつかの部分にまとめられているなあと思いました。最も色の密度が濃く円形になって目立っている部分がいちばん目を引き、気になる部分だと思っています。

おそらく、太陽かなあと思っています。色合い、形からしても太陽ではないかと、その周りは青い部分なので青空であると連想しました。

そして、三角形のように区切られている黒い線があり、黒い線と越えると、色の集まり方が違うように思えます。区切られた黒い線の下には白い色で区切られていて、僕には黒い線と白い色で区切られた部分はまるで屋根のように見えました。

「屋根から連想すると家が出てきます。白い色で区切られた下には、入口、ほいものもあって、やっぱり家なのかなあと思いました。しかし、別の考え方もできると思います。屋根ではなく山とか、入口ではなくトンネル、とか、一体何が正しいのかと考えさせられます。

よくよく見ると明るく色、暗く色が混ざっていて、線や区切りも考えれば考えるほどわからなくなるし、パッとした感じの中に王ヤ王ヤしたものを残すような気がしました。まさに、どのように見れば……のかということも考えさせることを促している作品だと思っています。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4246 古田 俊太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

出かける夫

ピカソ、ほい絵だと一目見て思いました。かなりうねっている男性の形や、女性の顔や体つきはピカソ、ほいのような気がしました。

明るい色と暗い色、特に白と黒の感じが静かな部屋の雰囲気が出てくると思います。家の中というか、部屋のたとわけるのは、家具、カーペット、時計らしきものがあるんですが、明るい色といっても、朝のような明るさがあるような感じがして、夫婦は家の中にいるのかなあと思います。

男性は女性の足の向きや窓の方向とは逆の方向に足が向いているのは、出かけなければ、という急ぐ気持ちを表し、その反面、女性と離れたくないという気持ちがあるのでは、首がぐにゃりと曲がり、女性のととを愛しているのでは、もしくはしばらく会えなくなるから、キスをしているのかなと思います。

女性は姿勢が前の方になっているので、やはり急いでいるのかなと、そしてその理由は手に花を持っているでも花瓶がっついていないので、花瓶に早く入れないと枯れてしまうからだと思っ、女性が目をパッチリ開けているのは、おそらく男性が普段しないこととしたから驚いているのではなからうかと思っます。

もう一度部屋全体を確認してみると、カーペットらしきものが壁にくっついたり、でも何か不自然な気だけし机の上には財布や包丁というナイフ、ほいもの、あとはご飯?のようなものがあり、カイスが1個という点から、2人は夫婦ではなく、まだ恋人なのかもしれません。

■ 美術感想文

提出日：7月14日



- 1点提出
 2点提出

学生番号 4247

氏名

後藤 咲紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

「月夜」

全体的に^{深い}青系の色調でまとめられていて、そこにアクセントのように黄色い丸がぽっかりと浮かんでいるのでこの作品は月夜の景色を描いたものなのだと思います。画面下側にある黄色と白がまじったような部分は、鋭角があったり規則的な形をしているので、人工物(建物の一部など)だと思います。画面上部の三角形も同じ一部だと最初思ったのですが、上側の三角形の方が下側よりも青味がかかっていて距離を感じたので、上側の三角形は建物ではなく山なのではないかと思いました。色のぬり方も独特で、四角形かおり重なったモザイクのような模様になっていて、画面にあるモチーフの1つ1つははっきりとした線によって形とられていますが、その模様のような色のつけ方によって、とほりある空間が互いにとけあっているように見えるところが、夜の闇にうめられている感じを表現しているのではないかと思います。下側に描かれているものの上の方が白いのは、月の光によってそこが照らされていることを表しているのだと思います。この疑問だったのは、黒い線でふちとられている部分とそうでない部分があるので、その違いはなんなのかが分かりません。私は特に、青や黄色、グリーンなどが折り返した独特の色合いに魅力を感じました。

■ 美術感想文

提出日： 7月4日

図 A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4248

朝日 美羽

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

自分で考えたタイトル 『理想』

全体的に暗めで落ちついた色合いで、少し寂しいような雰囲気をかもし出している。人物の動きはどこか空気感をはらんでいて、軽やかな印象を受けた。この絵は、一体何をあらわしているのだろうか。最初に見た時はよく分からなかったが、深く考えていくと、いろいろな側面が見えてくる気がする。

まず、真ん中にいる女性はどこか驚いた表情を浮かべている。緑色の服を着た人物にキスをされているからだろうか。黒い服の女性は、突然キスをされているように見える。前のめりになっていて、今にも手に持っている花を落としそう。

この、緑の服の人物は浮いていて、顔色もあまり良くないように見える。もしかしたら生きている人間ではないのかもしれない。男か女か分からない。スポンをはいているので、男かもしれない。生きていないとしたら、幽霊なのだろうか。女が、昔結婚していて、死別してしまった夫だとしたら、とてもドラマチックなストーリーが生まれそう。

しかし、そうではなく、この緑の服が、この女の人自身の想念だったと考えると。黒い服の女性が、内に秘めていた想念が、自分のような人がたをして自分の前に現れたのなら。もしかしたら、黒い服の女性は、誰かに仕立てて自分を殺して毎日を過ごしているのかもしれない。こんな暗い色の長いスカートではなく、もっと原色を使った服を着たい、スポンを履きたい、と思っている、理想の女性の容姿が、現れたのかもしれない。また、女性ではなく男性になりたい、と考えているのかもしれない。もう一人、理想の自分が、今の自分にキスをしている。それは、自分を愛す気持ち、特に理想の自分を愛す気持ちの現れだろうか。もう一人の自分は、空のなかを飛んでいるように見える。それは、女性を、自分から解放しようとしているのかもしれない。

今回は、一般的に考えられることではなく、少し違った可能性について書いてみた。さまざまな視点から、感想を書いてみると、おもしろいと思った。

■ 美術感想文

提出日：17月4日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4248

朝日 美羽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

自分で考えたタイトル『夜』

BやCの絵とちがって、完全な抽象画だ。でも少し風景画のようにも見える。しかし、近づいてよく見ると、何か細かい四角形のようなものが、集まって描かれているのが分かる。小さな四角は、まるで縫いつけたように、刺しゅうしたように見える。マイルのようにも見える。

右上に、黄色く丸いものがある。背景の青と相まって、月のように見える。今は、夜なのだろうか。下にある三角の線は、家の屋根であろうか。下にドアのようなかたちの線があるので、おそらく家だろう、と思う。ドアの近くは黄色の色合いになっている。まるで砂みだいた、と思う。小さい点で描写されていることせ、この黄色で、私はここが砂漠なのではないかと思った。砂漠の夜に建つ、廃虚をイメージした。

人が無く、広い砂漠の中に朽ちかけた建物がある様子を思い浮かべると、とてもさびしく切ない気持ちにならざる。おそらく、建物には人が入ることはないだろう。かみしさを感ぜせる風が吹くと、その建物は揺れ壊れそうになり、砂が舞う。さびしい風景だけれど、想像するととても美しく感じる。

この絵が、砂漠や建物や夜ではなかったとしても、この絵の中におそらく人間などの生き物は存在しないのではないだろうか。私は、この絵を見て、人のいない風景を想像した。

よく見ると、さまざまな色が使われている。どの色も、自然のような色だと感じた。空の色や、少しくまんだ所は砂が吹きすたぶ空の色だろう。茶色は、砂や土のような色だと思う。私は、この絵は古代の壁画のようだと、思った。彩度を下げた、自然界に多く存在しているような色で、風景を感じたままに描いた。この絵は、そんな絵だと私は思う。

微妙な色の変化と整った色づかいが、とてもきれいな作品だ。作者が何を描きたかったか、タイトルも作者名も何も分からないけれど、直感で何となくきれいだった。思った。家に飾るとなじみそうだった。と思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月4日

図

A B C D 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4249

先永 三千里

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

パルタソリス山

一見して、織物のような気がする、細かな色の違いが、丹念に織り込まれた織物と思わせる。心地良い空気感を感じる。穏やかな大気の満月の夜みたいな印象だ。でも、タイトルがパルタソリス山というには、これから山に行くのかもしない山に行くとしたら、朝だ。夜みたいな空気感だ。朝を描いている絵なのか山と言うかには、これは風景画だろと思う。画面半分をうめる三角がパルタソリス山で、右上のオレンジ色の円が太陽。その上にある赤っぽい細長いのは、雲？ そこまで長いとして、私は左下の了-4が気になる。この絵は全体的に物の描き方は単純化されて描かれていると思う。それを念頭に置いていて、左下の了-4は何となく人工物と思わせる。トンネルとか、今の時代で言うところの停留所とか、そのあたりのものだ。きっとそこからパルタソリス山向うのかもしない言わば出発点、気合を入れる場所があるの了-4なのだと思う。画面から見ると右側の了-4の側面は、たまたかすると、107-もどえそうた。

話しを戻すが、この最初から存在感を感じた、美しい青のクワラレ-ション。全部、四角で構成されている。丸い太陽の中だって四角が集まって形を成しているように見える。細かいなあと思う。最初の四角が集まって、1つの層になり、それが重なり合うことで、この美しいクワラレ-ションが成り立っているのだ。かなり几帳面さの必要な描き方だと思うのに、画面からはあまりキチキチとしていない。夕暮とか、息苦しさなんてものは全然感じない。むしろ逆に、ゆるやかな暖かい空気を感ずることが出来る。不思議だ。きっとこのパルタソリス山が人々に見せようとして、こういった雰囲気を感じてほしいからなのだろう。パルタソリス山のことには私は全然知らないが、周辺の人々から愛されていることはこの絵から伝わってくる。山の姿形だけでなく、山が人々に見せようとして、空気、向き合い方なども感じられた素晴らしい風景画だと思う。私もこの山と出会いたかった。

■ 美術感想文

提出日：7月4日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4249

光永 江里

タイトル

誕生日

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

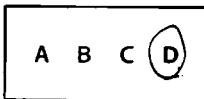
私の書くハッピーなタイトルだ。誕生日だからだろうか。私の書くハッピーな目になっただろうか。男の人なんて飛んでくるからいいだ。大喜びしているようだ。絵を見る分ではどちらの誕生日かはわからないが、家の中が何人か変哲のない様子なので、どちらかが女性が持っている花束を持って相手の家へとお祝いに訪ねたのだろうかと思う。めでたい。素敵な話した。羨しい限りである。めでたいのだ。だけとてんでこんな全体の色調が暗いのか気がなった。飛んで"しょうく"ハッピーな絵だから、もっと明るくて鮮やかな色合いでも良いはずなのに。

この絵で目が行くのは中央の人物2人の、とりわけ女性の方だ。絵の中で女性の肌だけが何んか温かい色をしていそう。加えて2人の間の空白に目が惹かれる。とてもキレイな白が2人の間にある。周りかすんでいいることもあって、光りはじめたように見える。先ほど"色が暗い"と書いたが、互いの服の色が暗いことも気になつてた。だから、2人の間の光に気づくと、なにかがそれもある気がしてきた。女性の目がまろまろとしていて、優しくうららかにしているみたいだ。2人はまた、恋人同士で結婚しているのかもしないかというところ、この部屋はまた、片方のものだ。普段は一人で暮らしているのだろうか。そこに恋人が花を持って自分の誕生日を祝いに来てくれたのだ。きっとそういう絵だ。だとすれば、この2人の間にある光は、2人の関係性の明瞭、希望すらも思わせる。このくすんだ部屋だから、この2人で"居る"。間にある白さのように美しいものがあるのだろうか。なにか、優しく微笑ましい。羨しい限りだ。男女の関係に限らず、この2人のように未来に希望を持つような明るい人間関係。相手と思い合うだけ態度の持ち方は大事だと思った。たまたまこんな風に飛ぶ程喜んでくれる相手だ。女性もこの男性がすてく大事達いな。言うべきはただひとつ、永遠にお幸せに。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図

 1点提出 2点提出

学号

氏名

4250

三岡 ゆきの

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

白昼

モザイクアートのように描かれているこの絵。思わず近づいて見てみたくなる。三角は山か、それとも家の屋根か。全体的に青を基調としていて、しつこくなくあさりしている。ひときわ目立っている画面右上に描かれているオレンジ色の円。円のまわりの青色は、他より濃くそれにより円が目立っているように感じる。円の上に描かれた色の違う物体は、オレンジの丸が太陽だとして、雲に見える。ずっと青空を切るような雲。夜にも見えるが私は昼だと見る。青空に雲があって太陽がある。三角を照らして綺麗な風景だ。

なぜこのようなモザイクアートのようにしたのか。

ずっと見ていると、布生地のように見えてくる。なにかの布生地風景を描く。三角はピラミッドも連想させ、青の中に混じる黄色は砂漠のような印象だ。布生地ということ民族衣装など、とりあえずエジプトが思い浮かぶ。

あつそうだが、全体的に青色で、どこかずずしげだ。

手前のアーチは、エジプトへの入口なのかもしれない。

濃い色で線を描きふちどった三角形とアーチと直線。

だが、手前のアーチは、より強く描かれていていちばん近く感じる。黄色系の色が青色の上から重なっているため余計に前に出ているように感じる。アーチをくぐり遠くに大きく壮大なピラミッドがそびえたつそんな白昼のなかの景色なのではないかと思う。

作者はこの景色を見るのが好きだったのではないかと思う。色の切りかえのリズムが楽しいのでフランスのイメージが伝わってくるからだ。アーチをくぐり見える景色も鑑賞者に魅せるためにこのようなスタイルをとったのではないかと考えた。

■ 美術感想文

提出日：7月14日

図 A B C (D)

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4251 氏名 大池ひとみ

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
月夜

壁画のような絵だ。幾何学的な線で描かれているが、風景画に見える。夜に、月明りが霧がほや〜とかがっている家を照らし出している絵のように見える。

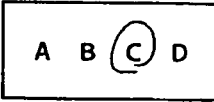
霧がかかっている風景の輪郭がよくわからなくなっているようなことを表現したいのなら、この表現は良いと思った。よく見ると様々な正方形の四角に区切られて色が変わっている。青を基調としているが、黄白色や白、ほろい色などを入れている。バランスがとれていると思う。バランスがとれているとも思う。

壁画のように見えると書いたが、これは何で描かれているのだろうか。絵の具ではなくて、何かを貼っているように見える。タイトルのようなものは...? としたら、すく根気のいる制作だったのだろうかと思った。大きさも、かなり大きいのではないかと思う。というか、大きくないと見えないか出てこないかと思った。

家の屋根かと思われる右斜めの線が、直線ではなく少しくぐりやくぐりしている。気になった。印刷の問題か、実際にそうなのかな。実際にそうなのとしたら、ちょっと嬉しい。完璧なバランスがとれているように見えて、少しゆらんでいるところがあると、ほっとして好感が持てた。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4251 氏名 大池ひとみ

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
突然のキス

舞台はヨーロッパかい。部屋に置いてある家具から
そう思った。とても不思議な男の目的が絵だと思った。

このシーンは、女性が流石のテーブルに花束を
生けに来ている。すると、男性が突然現れてキスした。
その瞬間ではなかったかと思った。女性は突然のことに驚いて
目を見開いている。

これは空想のように描かれているが、現実で起こった
ことを、感じたことに重点を置いて描いた世界だと思った。
作者が体験したことというよりは作者がこの女性に
なりきって描いたという感じがする。この女性は、突然のキスで、
まるで空中からふっと現れてきたように感じたのだ。

なぜこのようなありえない状況に男性を描いたのかと
いうと、その突然さ表現したかったのだと思う。男性に手が
届かなくなり、画面全体が平面的に描かれているのは、
作者が表現したいことにおいて不要だったからだと思う。
これが不思議感を増して、良い影響を与えている。

ちなみに、この花束はこの男性からもらったものだ
と思った。とても素敵な愛情が描かれている絵だと思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4252

橋本 千優

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

月のある風景

この絵にははじめ、絵ではなく紙切り物のように見えた。小さな粒がひとつの絵を描いているからである。これはモザイクアートだろうか。

近くで観てもよくわからないので離れて観てみると少しの違いではあるが色と線で境界が分かっている。その境界を意識して全体を観ると、青い背景にシ字かB丸いものが月のように見えた。そこで私はこの絵を月がうかがう夜の風景画と想定した。

すると中心部分にあるものは家だろうか。わん曲した線をドアだとすると、そう考えても違和感がない。そして色彩が溶化している境界によって家の輪郭がよくわからなくなっているのは、手前にもう一軒家があって、屋根の部分が重なっているということだろうか。するとこの絵は住宅街を描いているように感じた。

私にとっては家にあたたかみのあるものである。まわりの風景よりも暖色が使われているのが家のあかりが灯っているように見え、より家のように感じた。

人がいたり植物が描かれているわけでもなく、ただの無機物である家と、夜景だけを描いているのに色彩が豊かで、モザイクアートだからか、とてもあたたかみがあって一度観ただけでも心に訴えかけてきて、ほっとするような安心感がある絵で、とても好きだと思った。

■ 美術感想文

提出日： 7月 14日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4252 氏名 橋本千優

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

二つの世界

この絵を（はじめに）観たときは、平行感覚がおかしくなりそうなお不思議な絵だと思った。どうしてだろうかと考えるときに最初に目に入ってきたのは中心にいる2人の人物だ。

ぱっと見ると2人の位置関係がよくわからない。それ以前に、上部にいる男性の体勢が人間の範疇を超えている。これが平行感覚がおかしくなるひとつの要因だろう。

さらに全体をみても、ひとつひとつの物体（コップなど）は立体感があって描写も細かいのに、それぞれの配置が平面的であることが見て取れる。

どうして平面的なのだろうかと考えてみると、物体や人物と床の空間を表現するのに必要な影の描写が足りないことに気がついた。これによって机やイス、人物が浮いているように見えるのである。

そして、色彩が単調であることが暗い印象を際立たせている。奥にある織物のような布の模様が手前の机や人物よりもかきこまれていて、画面から混沌とした感情が見え隠れしている気がした。そのような流れから、わたしはこの絵の男性にそくなって幽霊のような存在になっていて、白い花束と女性が着ている黒いドレスがそれを表しているように感じた。男性が女性に接近していることから、いつでも見守っているよ というメッセージを伝えているようにも見た。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4253

塚本 楓

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

恋人の接吻

この絵を見て受ける印象は始めは大体皆同じだと思ふ。不思議で冷めたい印象の絵だと思ふ。その冷めたいという印象を強めたのは人や窓の近にちかむ上がる青や緑、灰の混じり色が大なる影響を与えている。特に接吻する男女と花の周りは色濃く、一層こちらに不隠な思いをさせる。花をどこかへ飾ろうとした女性、しかし男性はそんなことより女性と触れ合うことを優先しようとして女性の前に回り込み接吻をする。予想だにしないかたその行動に女性は驚きの表情を浮かべる。さきほどの第一印象の後、私の頭に浮かんだのはこのストーリーだった。しかし、それでは平凡すぎてこの絵にはそぐわない。第一そんな柔らかなシーンのようなものをこゝも暗い色合いでは表現しないうら。ではこの絵が示すものとは何なのだろうか。

この男性には腕が描かれていない、袖すら描かれていないので「これは腕がない」という表現、または省略の体面なのだろうか。これが描かれていないという表現であれば場合「自由がない、自由がない」という意味なのではないのだろうか。そして彼の足は地面につけてはならず、浮いてしまっている。これは「地に足がついていない」、地位の不安定な様子を表しているのではないかと私は考察する。次に部屋自体を見る。テーブルの上の壁にかかっている布はどれも複雑な模様を刺繍されており、それが何枚もあるということはお家が裕福であることを示していると思われる。花を持って歩いているのが女性なのでこの部屋の家主は女性なのではないのだろうか。すべてを合わせると不釣り合いな恋人達の接吻だとしたらこの暗い雰囲気にも納得がいく。二人の心の不安を、そして未来へ、世間への不安から物は歪みとんよりのした雰囲気は二人をとりまいていっているのではないかと。

私はこの絵のタイトルがわからなくてよく調べることができなかった。だからすべて私の妄想にすぎない。

■ 美術感想文

提出日：7月4日



- 1点提出
 2点提出

学生番号

氏名

4253

塚本 颯

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

時

この絵は夜を描いているのだと思っていた。しかし、よくよく見ているともしかして昼なのではとも思うようになり真逆であるはずの2つの時間帯どちらのものなのかわからなくなってしまった。美しい夜の闇に影をおとす家、それを照らす黄金の月。はたまた広がった青空に輝く赤い太陽。それらをうた、とけむりようの家。どちらとしてもとれるのだ。

しかし家の粉は青い色で覆われている。前の家の屋根たづつかそれにしても奥の家と比べて屋根が歪み歪みしている。屋根の一部から溶け出して来たようにも見え青は入口をも侵略し、家のすべてをその美しい青に染め上げようとしているようにも思える。私が思うこの絵の一番の魅力は黄・茶系と青・炭の対比である。特に先ほど述べた家の入口の周辺は私の目を惹きつけてはなさない。黒い線で境界がしっかり分けられていることによりその対比は一層強められ魅力を引き出している。黄色系またピンク系と空や屋根に比べて中味が濃い色の四角形がいくつもはりめぐらされた壁は視線を集めている。砂漠のイメージが私の中には浮んだ。そして入口内には淡い青と白色が、そして外に溶け出すにつれて色はどんどんと暗く、濁ってゆく。入口内の色は水色外は空を連想させる。

色だけで連想したあとにもう一度絵を見るとかすかにシチュエーションが変わって見える。砂漠にある家のように見えてくる。しかし、この絵に流れるゆたさとした時間は変わることはない。色を見つめていた時私自身も時を忘れてじっくり見つめてしまった。それがこの絵の美しさのうちのひとつなのではないかたづつかと私は思った。

図

A B C (D)

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4257

海老沢 美鈴

タイトル

夜

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

私がこの絵画を見て、まず見ええたのは画面右上のオレンジ色の丸です。そこだけ周囲の色から差がつけられて目立っています。そして、画面全体を見ると、青や紫の印象が強く、夜か夕方の場面を描いているのだと考えました。よって最初に目に入ってきたオレンジの丸い部分は月であり、そのすぐ上に描かれている右から左へのびるアクセントは夕空に浮かぶ雲であるととらえました。

画面上半分に見える大きな三角形は、月に照らされている家の屋根の部分に見えます。ドーナツ形も下方に見えます。そして画面右下のあたりには、地面に映る家の影と表れているように思えます。

そこをじっと見ていると、色の変わり目から、建物のシルエットが浮かびあがってくるように思えるからである。

この絵は全体的に暗い色が多いですが、かといって重い印象を受けませんでした。

例えばならば、絵本の一場面のおぼろげな、そして次のページには明るい世界が展開されるような、前向きな印象を受けます。

また、表面がザラザラしているのを見ると、手で表面をなぞったら気持ち良さそうな絵だと思いました。

タイトルが何かで描かれているのでしょうか。しかし、黒い線がひびかれている部分を見ると糸のようにも見えただけで刺しやうのような印象を受けました。

そして、なぜ、モザイクのような色の変化のつけ方で全体が描かれているのかと疑問に思いました。そのことにより描かれている物が夜に溶けこんでいる様子を、効果があるように思いました。

■ 美術感想文

提出日: 7月4日

図

A B C D

1点提出

2点提出

学生番号 4254 氏名 佐藤 未来

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

誕生日 シヤガール

初めてこの絵を見た時、まず暗い雰囲気のある絵だと思いました。全体的には色調の印象からくるものなのではないでしょうか。少し不気味に思えました。

そしてこの絵では何故か男性は浮いている様に見えます。それに男性の足元あたりから空間がゆがんでいる様にも見えます。その他に

まず観察して分かる事は恐らく外はまだ明るい昼間なのではないかという事ぐらいです。そして「誕生日」という題名をふまえてもう一度絵

を見てみると、女性の手には花が握られている事に目がいきます。

恐らくこの二人は交際をしていて、女性の手に握られている花は

男性から女性へのプレゼントなのではないかと思えます。そう考えると

男性が浮いているのは女性の誕生日を祝い日青々とした

気持ちになっている事の表れの様に見える。うれしさのあまり

シヤガあがってしまい空間のゆがみもそれに伴うものなのではないかと

思う。と同時に絵の印象も暗れやかたものへと変わって

ゆく気がします。また別の面から見ると、この絵は人物や、

右奥の静物などはある程度立体的に描かれているのに対して

左側のテーブルやイスなどはどこか平面的に描かれている様に見えます。

そこにどこかキュビズム的な部分部分の組み合わせ

というか空間の作り方の様なものがあるように思いました。

これもあわせてこの絵の不気味さです。暗い印象を作っている

のではないかと思っています。

■ 美術感想文

提出日: 7月14日

図

A B C (D)

1点提出

2点提出

学生番号 4254 氏名 佐藤 未来

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

月夜

まず「最初」にとても特徴的な絵だなと思いました。

点描画の様子は描かれ方に四い面をつなぎ合わせた

10センチ程度の様な画面の構成の仕方が不思議な絵だな

と思いました。全体的に青い画面になっているのと、右上に三角

かぶ黄色く丸い形が「満月の夜」を思わせられます。それに、

最初私は黒い直線で表されている物が「一つの建物の様に

思いました。月夜とその下の一家を思わせられました。しかし、

よくよく見てみると、次は上半分の三角の様な部分が山に見え

てきました。月夜に照らされた一つの山が雲にかすんでいる絵

に見えてきました。そう思うと「静かで冷めた印象」が伝わっ

くるように思えます。作者は何を思っこの絵を描いたのか

と思います。人物のモチーフになっているものと違い、抽象的な

この絵は作者の意図が汲み取りがらいたと個人的には

思います。そして人によってとらえ方も人それぞれとても自由に

生まれてくるのではないかと思います。こういった絵の方が「作者

側の意図よりも、見る側の人間が自由に思いをめぐらせる

事ができて「想像力」をかき立てられるのではないかと思います。

■ 美術感想文

D

提出日: 7月4日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4255 氏名 小館 采芽

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
 誕生日

男が明らかにおかしい。浮いてる、首が曲がってる。顔が青白い。死んでる？
 青白い顔の首が折れた人間が浮いていたら、まず幽霊だろう。どうすると、
 女性が着ているのは喪服、手にしているのは供花だろうか。「誕生日」というか
 「命日」じゃないのか。女性は目と丸くして驚いているように見える。それは、浮遊した
 男に首をまげてキスしたのが驚かす子だろうが、私も彼女は彼がキスした
 ことよりも彼の存在に驚いていると思う。いないと思っていた人の存在を感じて
 驚いていると思ったのも、男が死んでいるとしたら、なぜ女性と同じ空間にいる
 のだろう。首を曲げてまだ彼女と同じ画面の空間におさまろうとしている。
 「いつも君のとばにいます」だろうか。それにしても誰の誕生日だろう。
 男性か女性か、「生まれてきてくれてありがとう」なのか、「現在まで生きてくれて
 ありがとう」なのか、どちらだろう。なんとなく、悲しみと喜びがまじりこみような
 絵に感じた。

■ 美術感想文

D

提出日: 7月14日

図 A B C (D)

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4255 氏名 小館 采芽

作題の題名が得た人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル 10月17日山へ

初めに見ると、つらつとしたタイトルで画面が作られていいると思いたのだが、よく見るとどうではなかった。いっぱい長方形がびしり並べられている。そこから次は色によってもう少し大きな四角に区切られている。その色の組み合わせ、濃い色、淡い色がすごくよかったと思った。また、うしろに夢心地で山を見つめていたのだろうか。山の輪郭、手前のアキのようなものは、きりした線が引かれている。タイトルを知ると、家が描かれていて、手前のアキが入り口、山が屋根だと思っていた。山なのに、主な色彩が緑と青なのはなぜだろうか。冬だろうか。そういえば、冬に日が落ちたあとの外を見たら木も道も家もみんな青く見えたと感じた経験がよくある。この絵ではまた日があるが、夜明けだろうか、日暮りだろうか。「10月17日山へ」というタイトルは、これから向かう、という意味に思える。これから開始まうといふことだから、夜明けではないかと考えた。期待をかけた絵だろうかと思う。

■ 美術感想文

提出日：7月4日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4256 千釜 遙香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

ロマンス

とても不思議な絵だ。全体的に小さくすんだ色合いをしており、少し不気味な雰囲気を出している。中心の2人の人物や、周りの机や椅子の形が歪んでいる所と、花や壁に貼ってある布の柄の細かい描き込みがミスマッチしている所も不思議な感じがする。

中心の2人の男女がキスをしているが、なぜか女の人のほうは目を目開いて悲劇的な表情をしており、男の人に至っては死んだような顔をしている。ありえない方向に首が曲がっているし、浮遊しているようにも見える。死んだような顔、ありえない体勢、女の人の手の花束。これらから推測すると、この男の人はやはり死んでいるのではないだろうか。女の人と男の人は付き合っていて、彼が急に死んでしまったのだ。そして、彼女はショックのあまり、世界は歪み、くすんだものに見えるようになってしまったのだろうか。彼女は悲しみを堪えて彼にたむけようとする花を持って歩み始めるが、悲しむ彼女に最後のあいさつとして彼がキスをするのだ。死んでしまった後の最後のキスによって、彼女は明日から悲しみを乗り越えて生きていけるようになったらう。

この奇怪なストーリーとマッチした、不思議なタッチの絵である。

図

A B (C) D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4257

海老沢 美鈴

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

驚く女性

まずこの絵画を見て最初に目に入ってきたのは、中心の女性の表情です。目を大きく開いていて虚空を見つめている横顔に見えます。

そしてその女性の上方で男性と思われる人物が、現実ではありえないような動きをして、女性に口付けをしているのも印象的です。

このことから、女性は男性に驚いているのか?と考えました。

しかし、女性が「前のめりでアンバランスなポーズ」をしているのも気になります。彼女の手には花束があり、もしかしらこれからその花束を窓際に生けようとするところだったのかもしれません。

そこで、彼女は突然足元のバランスを崩し、それで驚いた表情をしているようにも見えます。女性はその後、画面左にあり

机に頭をぶつけ、打ちどころが悪く、この世を去る運命なので。

その前に彼女が見ている走馬灯が、この不思議なポーズの男性のたとえと考えました。

彼は、彼女の恋人であった人物だと思われる。

女性の着用している服は黒く、喪服に見えます。

これについて、私は死を連想しました。

そして男性は、女性に比べ随分顔色が悪く、地面からも浮いています。このことも同じく死者を連想させます。

絵全体の雰囲気は、どんよりと暗い印象が強いです。

インテリも落ちついた色合いとなっています。

加えて部屋の空間が歪んで描かれていることと、床を見ると気づくことができます。

これは体のバランスを崩している女性の視点や気持ちととらえてこう描かれているのかも面白いと考えました。

このように、私は一瞬のお来事と一時停止させて描いた絵として見ました。

■ 美術感想文

提出日： 7月 1 日

図

A B (C) D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4258

千場りん

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

死んだ恋人

不思議な絵だと思つた。

家の中は少し不気味といつてもいいような、色ど窓から見える空は曇っているようだ。

家具たちも今にも宙に浮きそうなるふあふあとした少し落ちつかない感じがある。

そんな家具たちに囲まれた花を持った女性と他の女性にキスをしている男性も

ふあふあしている。男性にかきつては完全に宙に浮いているし体がまるで

閉接が無いかのうにふにふにやしているまるで幽霊のようだ。

男性は目をつぶっているのに女性は見開いている。あどろんでいるのだだろうか。

それにキスとは愛情表現の一つだと思つたが周囲の雰囲気は幸せそうではない

感じがある。何故だろうか。

これは精神的な世界、または目に見えないものを描いているのかと思つた。

花を持った女性は黒い服を着て黒い靴をはいている。何だか喪服のように

思えてきた。ではキスをしている男性は夫か恋人で死んでしまったのだだろうか。

部屋の中が暗くアンバランスなのは女性が男性を亡したことでのショックや

悲しみを表現しているかのように思えた。

男性は女性を励ますかのように優しくキスしているとしてもロマンチックな絵に

思えてきた。

花の存在が生死や愛情などを表現しているように思えた。

女性は男性に気がおき男性を見ているから目を開けているのかと

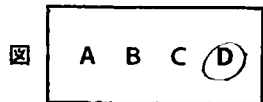
思つた。

一見周囲と二人の温度差があるようだが不思議とマッチしている

とても魅力的な絵に思えてきた。

■ 美術感想文

提出日： 7 月 14 日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4258	干場りん

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。」

偉大な山

素敵な絵だというのがこの絵の第一印象である。

平面的でとても単純化した絵のように見える。だが小さい四角のようなマスが沢山あり色が濃いとても緻密な絵のようにも見える。

線がハッキリと描かれていてまるで家か何か建物の山に見える。オレンジのは太陽のように思えた。下の線はドアか入口を意味しているかのように思えた。

まるでドット絵ようだ。他の三角形のようなものは何だろうか。太陽の近くのは雲だろうか。

この絵が夜か昼か…。晴れた青空のようにも見えるが夜空に満月があるようなどちらでもまい気がしてきた。まるで時間は関係がないようにさえ見えてしまふ。

小さいマスの中に同じ色がありそれらが沢山集まり一つの四角(正方形)になり線が通ることによってその四角がさえぎられたりもしている…。

何だか塵もつもれば「山と山」ということわざが思い出されてしまふ。

風景を単純化すると同時に細密化しているようにも思えた。

考えれば考えるほど魅力的な絵に思えてくるがどんどんわからなくなってしまう。

この建物の山のようなのは絵の2.5倍ほど描かれて画面いっぱいはいっぱいだととても大きく偉大なものに思えてきた。

作者はこの建物の山のようなものが好きで大切なものだろうかと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月15日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4259

高橋 陸

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

空虚

描かれているものは部屋にいる花束を持つ女性と、彼女にキスをする男性、という、モチーフとしてはありがちかとは思いますが、絵全体からとても気味の悪いようなものを感じました。気味は2人の人間の描かれ方という要素ももちろんあるのですが、色味やタッチなど、絵全体の持つ雰囲気から滲み出ているように思いました。合っているようで合っていない、正しいようで正しくない、そんな違和感を強く感じました。題材は明るくとらえられてもおかしくないものたろなのに、幸せでなく、むしろ不幸にも感じ取れるような重く不安な色使い、タッチそして何よりも2人の表情がとても印象的で、余韻とというか、残るものだと思います。どんな感情と、いうよりも、ただひたすらに「無」のような、「空虚」のような、空っぽとも感じ取れるとも思います。しかし、その「空」であることが悪いというのではなく、むしろ空であることにとっても意味がある。そんな風にとっても強く感じました。

■ 美術感想文

提出日：7月4日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4256

千釜 遥香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

サンセットブルーハウス

落ち着いたカフェに飾ってありそうな系会「ご」。中年のダンディな店主が、おいしいコーヒーを淹れてくれて、ブルースを聴きながらゆっくりとコーヒーを飲む午後。ゆったりな系会「ご」。

青と黄色、オレンジを基調にした美しい色彩で描かれています。形というより色を楽しむ作品「ご」。モチーフ自体は、夕暮れの太陽と家「ご」と思うが、かなり単純化されていて、平面的な表現になっている。家は黒い線で表されていて、背景と家の内部が同化している。

この青とオレンジの色彩から、やはりこれは夕暮れの海辺の家「ご」だろう。家と背景が同化しているのでも、この家は海の水が浸水してきているのかもしれない。しかし、津波によって海の下に沈んでしまったことか、というわけではなく、元々そういうもののような落ち着いた感じを感じる。

よくよく見てみると、この画面は小さな四角の物体が貼り付けられているよう「ご」。太陽の部分は少し違って質感になっていて、シンプルな系会「ご」が、面白いアクセントになっていると思う。

■ 美術感想文

提出日：7月15日

図

A B C (D)

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4259

高橋 陸

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

明るい空

以前、色えんぴつでの頭の部分を正面にして並べて名画を再現した作品を見たことがあったのですが、その作品にくととも印象が似ていました。そのせいか、とても無機感的な感じがします。どう描かれているのかはわからないのですが、並んでいるように見える1つ1つのピースのせいかも知れません。描かれているものは大きな家と空、そして太陽もしくは月かも知れませんが、私には太陽に見える。そして空にかかる雲が、雲がかわらてきているのではなく、晴れて雲が抜けていくように見えます。この作品は描かれているものはただ家なのですが、全体から感じ取れるのは「明るい印象だ」と思いました。家の形はくとも単純化されていて、形だけをみるとくとも不確定に見えるのですが、作品全体としてくとも安定感があるように見えました。それは色使いから感じるのももちろんありますが、この1つ1つを並べたようなムッチにもあるのではないかと思います。

■ 美術感想文

D

提出日: 7月14日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 _____ 氏名 _____

赤内 俊貴

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
眠り

何かに見た感じの印象を、何かが静けさを感じた。
 書いてある家や、どうしてそこにも見えたりも出ている
 ところから、大地の静けさの夜を思わせるものです。何と云え
 ない月に照らされる土地の静けさの音、ジリジリとした
 落ちつかない様子と比べて、さうした、安心感と与え
 てくれる、爽やかな様子を演出している様に思えます。
 手前に見える扉は、ドラミッドに眠る王家の部屋へ
 とつづく秘密の階段の様にも見えます。また、何で絵描
 いているのか、表面がタイル貼りにされているか様に見える
 この表現も、昔からの工芸的な要素をふかして、
 これもまた、古代の雰囲気を出している趣があります。
 王族がこのドラミッドの中で安らかに眠り、そして
 国民を見守ってくれているかの様な安心感を
 もたれた。月の土に見える赤い光線の様なものは
 何なのか、僕はこの王家の人間の視線
 ではないかと思う。日々、民を見守っているのだ。
 月の光が目立っているのは、私をずっと見守っているから
 でしょう。